

## 目次

アカウンティング	1
マーケティングA	3
マーケティング演習	5
中四国経済	7
ファイナンス基礎	9
ビジネス統計	11
ベンチャーの経営戦略	13
企業法務	15
組織マネジメントとコンプライアンス	17
経営戦略（福山）	19
経営戦略演習1	21
経営戦略演習2	23
マーケティングB	25
イノベーション戦略	27
持続可能な地域資源マネジメント	29
地域ブランド戦略	31
デザインマネジメント	33
ヘルスケアシステム	35
ヘルスケア情報のマネジメント	37
ヘルスケアマネジメント（介護・福祉）	39
ヘルスケアマネジメント（医療）	41
医療介護のイノベーション	43
医療流通のイノベーション	45
社会イノベーション	47
アジアの環境ビジネス創造	49
特別研究B（IoT社会のビジネス創造）	51
特別研究C（経営のリスクマネジメント）	53
特別研究D（マネジメントアカウンティング）	55
特別研究E（ファイナンス演習）	57
特別研究F1（スタンフォード大学連携科目1）	59
特別研究F2（スタンフォード大学連携科目2）	61

授業科目名	アカウンティング（Q2・土）
担当教員氏名	中川 隆喜
研究室の場所	
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	
E-mail/HP	学生便覧参照
授業形態	<div>ハイブリット</div>
授業の形式・方式	講義・演習
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別	選択必修
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	アカウンティング 簿記 財務会計 管理会計 財務分析 損益分岐点分析 意思決定 バリュエーション
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	知識（◎）分析力（◎）思考力（○）事業創造力（△）実践力（◎）  【到達目標】 ■知識 1 一般に公正妥当と認められる企業会計の基準を理解し、仕訳を作成することができる。 2 損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の用語およびその意味について説明することができる。 3 管理会計に必要な知識を有し、説明することができる。 ■分析力 1 財務指標や財務比率を用いながら企業の財政状態・経営成績を分析することができる。 ■思考力 1 会計的な観点から、企業戦略及び財務戦略を立案することができる。 ■事業創造力 1 新事業や新設会社の立ち上げる際に、事業計画を立案することができる。 ■実践力 1 財務分析、意思決定、中長期的な収支計画の作成ができる。 【カリキュラム上の位置付け】 本科目は、アカウンティング系の基礎科目に位置づけられる。
授業の内容	企業を取り巻く環境や市場が著しく変化する現代社会において、企業が存続・成長していくためには、企業の経営成績および財政状態の正確な分析と迅速な意思決定が必要となります。 本講義においては、会計の専門的な知識を身に付けるだけでなく、経営者やプロジェクトマネージャーとして、経営戦略の策定や意思決定を行う際に必要とされる最低限のアカウンティング能力を身に付ける事も目的とします。
成績評価の方法	日常点（20%）、問題演習およびレポート（55%）、プレゼンテーション（25%）
テキスト	西山茂『MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる』KADOKAWA 2020年 ISBN：978-4046047496 ※紙版は在庫僅少となっていますが、電子版は購入可能です。 電子版が入手できない方は、授業で配布するレジュメを活用願います。 日本公認会計士協会『経営研究調査会研究報告第32号「企業価値評価ガイドライン」』（日本公認会計士協会のHPから入手可能） ビジネスアカウンティング研究会 編集『ビジネス会計検定試験®対策問題集3級』同文館出版2019年ISBN:978-4495192242
参考文献	小宮一慶『大学4年間の会計学見るだけノート』宝島社 2023年 ISBN：978-4299049919 近藤哲朗、沖山誠『会計の地図』ダイヤモンド社 2021年 ISBN：978-4478105573 チョウ・ピョウンヒョン『MBAで学ぶ世界標準の会計とファイナンス』2021年 ISBN：979-1165529840 宇田川 荘二 著『中小企業の財務分析』同友館 2024年 ISBN：978-4496057472 熊野 整 著『エクセルで学ぶビジネス・シミュレーション超基本』ダイヤモンド社 2019年 ISBN：978-4478104897 その他、授業の中で適宜紹介します。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	授業は電卓を利用する機会があります （※シンプルな機能の電卓で構いません。）授業中、随所で自分の意見を述べてもらう機会を作ります。いつ発言を求められても良いように、常に考えながら授業に臨んで下さい。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】「能動的学修機会があった」という項目が他より評価が低いので、演習の時間をもっと増やしたいと考えています。受講生が多い授業において全員に発言を求めると間延びしてしまうとの意見がありましたので、個々に意見を求める際は、よ

り端的かつスピーディに実施出来る質問事項になるよう配慮します。  
また、事前配布のレジメに不必要な情報が含まれているとの指摘もありましたので、効果的な学習が出来るようレジメの見直しを実施します。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	アカウンティングの基本的知識	テキスト（MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる）第1章、第2章（pp.16-27）を読んでおくこと。その上で、アカウンティングがなぜ必要なのかを自分なりに考えておくこと。
	第2回	簿記の概念、財務諸表の作成過程	日商簿記検定における簿記3級程度の教材を用いて財務諸表の作成過程について予習しておくこと。
	第3回	貸借対照表 基本的な知識とその役割	テキスト（MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる）第3章(pp.28-45)を読んでおくこと。 資産・負債・純資産にはどのような勘定科目があるのか理解しておくこと。
	第4回	損益計算書 基本的な知識とその役割	テキスト（MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる）第4章（pp.46-63）を読んでおくこと 損益計算書で集計される5つの利益について理解しておくこと。
	第5回	キャッシュ・フロー計算書 基本的な知識とその役割	テキスト（MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる）第5章（pp.64-83）を読んでおくこと。 キャッシュ・フロー計算書を作成する目的を理解しておくこと。
	第6回	財務分析 分析手法の解説と問題演習	テキスト（MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる）第7章（pp.106-137）を読んでおくこと。 財務分析を行う理由を把握した上で、どのような指標があるかテキストで確認する。
	第7回	グループディスカッション	第3回から第6回までの内容を踏まえ、グループディスカッションを行うので、復習しておくこと。
	第8回	問題演習（第6回実施分）の講評 グループディスカッションの解説 事業計画作成の基礎知識	第6回の授業で実施した問題演習、第7回で実施するグループディスカッションについて解説と公表を行う。 その後、事業計画書を作成に関する講義を行うどのような事業の計画書を作成するか事前にイメージしておくこと。
	第9回	管理会計（短期的意思決定）	テキスト（MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる）第8章（pp.138-147）を読んでおくこと。 短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いを理解することを目的とする。
	第10回	管理会計（長期的意思決定）	第10回目まで習得した知識を元に事業計画書を作成する。 事業内容に即した経済的合理的を有する計画を作成することを主目的とする。どのような事業の計画書を作成するか事前にイメージしておくこと。
	第11回	バリュエーション（企業価値評価）① 評価方法の基礎知識	日本公認会計士協会『経営研究調査会研究報告第32号「企業価値評価ガイドライン」』（日本公認会計士協会HPから入手可）の「IV評価アプローチと評価法（pp.25-55）」を読んでおくこと。
	第12回	バリュエーション（企業価値評価）② 事例研究	日本公認会計士協会『経営研究調査会研究報告第32号「企業価値評価ガイドライン」』（日本公認会計士協会HPから入手可）の「IV評価アプローチと評価法（pp.25-55）」を読んでおくこと。
	第13回	IFRSと日本基準 主要な相違点について	テキスト（MBAのアカウンティングが10時間でざっと学べる）第6章（pp.84-91）を読んでおくこと。 IFRSと日本基準ではどのような相違があるか自分なりに考えること。
	第14回	プレゼンテーション① 事業計画の発表および講評	第8回で実施した講義内容を元に、自らが考え作成した事業計画書を一人3分程度で発表。 発表後には質疑応答の時間を取るため、質問に応えることが出来るよう準備をした上で授業に臨むこと。  全員の発表が終了後、授業の総括を行う。
	第15回	プレゼンテーション② 事業計画の発表および講評	第8回で実施した講義内容を元に、自らが考え作成した事業計画書を一人3分程度で発表。 発表後には質疑応答の時間を取るため、質問に応えることが出来るよう準備をした上で授業に臨むこと。  全員の発表が終了後、授業の総括を行う。
	第16回	プレゼンテーション③ 事業計画の発表および講評 総括	第8回で実施した講義内容を元に、自らが考え作成した事業計画書を一人3分程度で発表。 発表後には質疑応答の時間を取るため、質問に応えることが出来るよう準備をした上で授業に臨むこと。  全員の発表が終了後、授業の総括を行う。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	マーケティングA（Q1・木）
担当教員氏名	江戸 克栄
研究室の場所	1475
連絡先電話番号	082-251-9791
オフィスアワー	土曜日（事前にE-mailにて連絡してください）
E-mail/HP	edo@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択必修
履修要件	1年次
免許等指定科目	なし
キーワード	マーケティング・ミックス、市場環境分析、顧客志向
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎）分析力（○）思考力（ ）事業創造力（○）実践力（ ）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識・・・マーケティングのプロセスと基本的政策</p> <p>■分析力・・・市場、顧客、ユーザーやステークホルダーを理解するための分析力</p> <p>■思考力・・・マーケティング・マインドと創造力</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>基礎科目として選択必修科目であり、「マーケティング・リサーチ」等のビジネス科目へと応用される科目である。</p>
授業の内容	<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。そのため、本講義では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化社会とマーケティングをテーマとする。講義で扱う事例は広範囲にわたっており、そこからマーケティングそしてその基本的プロセスを体系的に習得する。</p>
成績評価の方法	日常点：10% 試験およびレポート：90%
テキスト	和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマ
参考文献	参考文献、参考資料については随時授業中に紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>マーケティング入門を受講されることが望ましい。</p> <p>積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p> <p>なお、ゲストスピーカーなどの都合により、各回で扱うテーマの順番が前後する場合があります。</p>

回数	授業計画	準備学習
第1回	マーケティング・ミックス①Product ブランドとマーケティング	テキスト：和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマを読んでおくこと。
第2回	マーケティング・ミックス②Price 付加価値・価格とマーケティング	テキスト序章、第1章、第2章を事前に読んでおくこと。また、復習として、p.17,18の演習問題を各自やっておくこと。
第3回	マーケティング・ミックス③Place IOT・ICT時代の流通・物流	テキスト序章、第1章、第2章を事前に読んでおくこと。また、復習として、p.37,55の演習問題を各自やっておくこと。

授業計画	第4回	マーケティング・ミックス④Promotion トリプルメディア・PESOモデルとコミュニケーション	テキスト第3章、第4章、第5章を事前に読んでおくこと。授業中にディスカッションを行うので、広島企業や組織を選び、その市場環境の事例研究をしておくこと。
	第5回	中小企業のマーケティング	テキスト第3章、第4章、第5章を事前に読んでおくこと。また、復習として、p.73の演習問題を各自やっておくこと。
	第6回	グローバル・マーケティング	テキスト第3章、第4章、第5章を事前に読んでおくこと。授業中にディスカッションを行うので、広島企業や組織を選び、そのターゲットについて事例研究をしておくこと。
	第7回	CSRとサステナブル・マーケティング	テキスト第3章、第4章、第5章を事前に読んでおくこと。また、復習として、p.124, 125の演習問題を各自やっておくこと。
	第8回	21世紀型マーケティング Post/With COVID19時代のマーケティング	テキスト第8章を事前に読んでおくこと。また、復習として、p.196の演習問題を各自やっておくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	マーケティング演習（Q2・金）
担当教員氏名	岡田 浩一
研究室の場所	広島に研究室がないので、必要な場合には事前に連絡してください
連絡先電話番号	電話番号は公開いたしません、Emailでご連絡ください
オフィスアワー	設けない
E-mail/HP	d10444@ocada.net
授業形態	対面
授業の形式・方式	講義、演習
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択必修
履修要件	1年次
免許等指定科目	なし
キーワード	マーケティング・ミックス、市場環境分析、顧客志向
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（○） 思考力（◎） 事業創造力（○） 実践力（△） 事業マーケティングのバランスの良い経営能力を育むことを目指したい</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識・・・マーケティングのプロセスと基本的政策についての理解</p> <p>■分析力・・・市場、顧客、ユーザーやステークホルダーを理解するための分析力</p> <p>■思考力・・・マーケティング・マインドと創造力</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>基礎科目として必修科目であり、「マーケティングリサーチ」等のビジネス科目へと応用される科目である。</p>
授業の内容	<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。</p> <p>そのため、本演習では、伝統的マーケティングマネジメントだけではなく、近年重要性を増してきている、顧客志向、関係構築、グローバル化、情報化などマーケティングをテーマとした議論やディスカッションを行う。</p> <p>履修者は、数名のチームに分かれ、一つの事業を選んでクラスの間の時間も含めてチームごとのディスカッション、企画、提案準備に参加することが必須である。ここで扱うケースを通し自分で考え、チームの経験を共有しながらマーケティングの基本的プロセスを体系的に習得し、マーケティング的なものの見方、考え方を身につけることが期待される。</p> <p>また、演習科目であるがクラスの半分はレクチャ中心の講師とのディスカッションに充てられる。</p>
成績評価の方法	<p>クラス参加(CP)：20%</p> <p>チームプロジェクト(マーケティング提案)：40%</p> <p>チームプレゼンテーションで決定する</p> <p>チームの全員が同じスコアを得る</p> <p>レポート：40%</p>
テキスト	和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマ (マーケティングAのテキストと同じである)
参考文献	<p>上記をテキストとして挙げておくが、これに限らず取り上げるプロジェクトに必要な資料には積極的に触れることが推奨される</p> <p>また、関連しそうな情報には平生から触れる機会を大きくいただきたい</p> <p>上記以外の参考文献、参考資料をクラスで紹介することもある</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>和田充男、恩蔵直人、三浦俊彦著[2022]「マーケティング戦略」、有斐閣アルマ</p> <p>をテキストとして挙げておくが、これに限らず取り上げるケースに必要な資料には積極的に触れることが推奨される。</p> <p>また、上記以外の参考文献、参考資料をクラスで紹介することもある。</p>

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	(1日目、第1時限)【講義】 イントロダクションと マーケティングの基礎プロセス復習	「マーケティングA」はじめ、マーケティングに 関して復習しておくこと
	第2回	(1日目、第2時限)【演習】 チーム組み チームごとにとりあげる事業の選択	—
	第3回	(2日目、第1時限)【講義】 Kotler的マーケティングに則った事業の課題とマーケティング施 策提案(STP, 4P など) コメント、後半の課題についてのオリエンテーション	「マーケティングA」はじめ、マーケティングに 関して復習しておくこと
	第4回	(2日目、第2時限)【演習】 チームごとにアイディエーション	—
	第5回	(3日目、第1時限)【講義】 ブランド、CJMなどについてのレクチャー	各自のビジネス経験を踏まえて考えながらレクチャ ーに参加すること
	第6回	(3日目、第2時限)【講義】 第5回の続きとディスカッション	各自のビジネス経験を踏まえて考えながらレクチャ ーに参加すること
	第7回	(4日目、第1時限)【演習】 取り上げた事業についてのより広い提案 約25人の履修を最大と考え、4-5名/チームとして、 5チーム想定、 各チーム入れ替え時間含めて15分Max	提案発表に向けての準備をしておくこと
	第8回	(4日目、第2時限)【講義】 提案に関する講評、ディスカッション コース全体のレビュー、クロージング	—
授業計画			
シラバス備考	演習科目でもあり、チームは8回を通じて固定する。 同じチームになった同級生との積極的なインタラクションを強くお勧めする。 チームプロジェクトであり、教室外でのチーム内の連絡や共同、ディスカッションなどは必須である。		
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイ ルをアップロードしてください			

授業科目名	中四国経済（Q2）
担当教員氏名	高橋 龍二
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	1 年次
免許等指定科目	
キーワード	都市経済学・統計学・国土計画（ランドデザイン）・産業連関・地域経済循環
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力（○） 思考力（△） 事業想像力（○） 実践力（△）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識 経済発展の歴史、国土計画などマクロ的視点での経済圏域の包括的理解と、都市経済学、統計学などのミクロ的視点から、中国四国経済圏の評価や経済発展のプランニングにおける基礎知識を身に着けることができる</p> <p>■分析力 広島県産業連関分析ツール及び地域経済循環分析(RESAS)など活用し、地域の経済発展に向けた事業戦略が策定できる</p> <p>■思考力 中国四国主要都市圏の構想を、都市力、地域力などの評価手法で評価することができる</p> <p>■事業創造力 海外事例等に学び、前例や既存の慣習にとらわれない地域経済発展方策が策定できる</p> <p>■実践力 広島県経済の産業構造と物流等の課題認識を踏まえ、具体的な課題解決方策が策定できる</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 当科目は、本カリキュラムの中の基礎科目である</p>
授業の内容	<p>第1・2 回目：中四国圏域における経済発展の歴史や国土交通省の国土計画に基づく中四国エリアのインフラ、経済スケール、圏域の現状と課題などをマクロ的視点で包括的に理解する。</p> <p>第3・4 回目：中四国圏域内の主要都市の経済圏域（都市圏、商圏、交流人口など）と、相対的な位置付け（都市力評価、地域力評価）の評価と、各自治体の掲げる都市圏構想等について、都市形成の基本理論（都市経済学、統計学など）に基づきミクロ的視点で理解する。</p> <p>第5・6 回目：産業連関計算、地域経済循環分析(RESAS)、海外事例（例えばドイツなど）も参考に、地域の経済発展をプランニングする上で役に立つ手法を学び、実習する。</p> <p>※ここで学んだ手法等活用し、テーマ設定を行い、4 日目の課題（自ら考える経済発展方策）を課す。</p> <p>第7・8 回目：将来に向けた課題解決として、特に広島県の物流課題や産業構造の現状を踏まえ、方策を考える。なお、学生自らが課題解決に向けた方策の提案（協同提案によるプレゼンテーションも可）を行い、試験とする。</p>
成績評価の方法	<p>日常点：20%</p> <p>レポート：40%</p> <p>プレゼンテーション(試験)：40%</p>
テキスト	<p>講義テーマが多岐にわたるため、特定のテキストは指定しない。</p> <p>国のホームページ等で取得可能な資料は、PDF化して事前配布する。</p> <p>参考文献において、それぞれの分野ごとに参考となる知見を得られる図書を紹介する。</p>
参考文献	<p>統計分布を知れば世界が分かる 松下貢著 中公新書 2019年10月(ISBN978-4-12-102564-7)</p> <p>都市経済学 高橋孝明著 有斐閣ブックス 2012年10月(ISBN978-4-64-1184060)</p>



備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>何かを学ぶというより、ともに考えるという姿勢で積極的に参加してください。毎回、事前に読んでおいて欲しい文献等紹介と、講義後の簡単なレポート（500 字程度）を課す予定です。広範囲な科目でもテーマを絞り、各授業の冒頭で学生個々の課題レポートの紹介や、それに基づく意見交換の時間を設けたいと思います。</p> <p>最終課題は学生個々のプレゼンだけではなく、協同提案を認めるなど工夫したいと思います。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】講義時間が限られている中で、多くの情報を提供しているため、結果的にグループワークやディスカッションが不十分であることが反省点です。事前の資料提供の工夫を行い、その分、受講生間の議論の時間を多くできればと思います。また、情報は論文ベースを中心に、いろんな方の意見や理論の紹介を増やしたいと思います。</p>
---------------------	---

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	【中四国圏域の経済史と経済発展】 ・戦後の経済史における中四国地方	○国土計画の歩みに関する資料（国土交通省HP）のうち、国土審議会部会報告資料が参考になりますので事前にご一読ください <a href="https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000081.html">https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudoseisaku_tk3_000081.html</a>
	第2回	【国土計画における中四国経済】 ・直近の国土計画における中四国圏域の現状と課題，将来構想	○平成26年7月4日「国土のグランドデザイン2050」公表資料のうち、概要資料について事前にご一読ください <a href="https://www.mlit.go.jp/common/001047114.pdf">https://www.mlit.go.jp/common/001047114.pdf</a>
	第3回	【都市形成の基本理論を学ぶ】 ・都市の形成，成長，発展を分析整理した学術的な理論を紹介	○1日目の講義後に参考図書から事前に引用紹介します(PDFにて提供)のでご一読ください ① 統計学に学ぶ ② 都市経済学に学ぶ
	第4回	【中四国の主要都市圏の構想と評価】 ・中四国主要都市圏の経済構想と都市力，地域力の評価	○1日目の講義後に資料提供します(PDF)のでご一読ください ① 交流可能圏域に着目した評価指標の開発 国土交通省 2006年9月 ② 200万人広島都市圏構想について 広島広域都市圏（広島市企画総務局）
	第5回	【経済発展のプランニング】 ・事例に学ぶ経済規模と経済発展	○2日目の講義後に資料提供します(PDF)のでご一読ください ① 中国地方の輝く企業 中国地方のワリワン・ナンバーワン企業（一社）中国経済連合会2019年3月 ② 「独り勝ち」のドイツから日本の「地方・中小企業」への示唆 岩本晃一(独)経済産業研究所2015年3月
	第6回	【経済発展プランニングの手法】 ・環境省が公開している地域経済分析ツールの紹介と実習	○以下の分析ツールを活用しますが事前準備は不要です。 ・広島県産業連関分析ツール 平成27年（広島県） <a href="https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/toukei/sangyorenbunsekitoool.html">https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/toukei/sangyorenbunsekitoool.html</a>
	第7回	【広島県経済の課題解決と解決方策】 ・広島県の産業構造と経済課題(特に物流)	○3日目の講義後に資料提供します(PDF)のでご一読ください ・産業競争力強化のための物流の連携強化，生産性向上及び物流ネットワークの強靱化に関する政策提言 中国地方国際物流戦略チーム(中国経済連合会) 2021年12月
	第8回	【自ら考える地域経済発展方策】 ・学生による方策提案（プレゼン方式）と意見交換	○最後にプレゼン発表頂きます（1人5分程度）が、以下のHPに、中国経済連合会の各分野への様々な提言が掲載公開されているので、ご自身のテーマの参考にしてください。 ・提言・要望・報告（一社）中国経済連合会 <a href="https://chugokukeiren.jp/proposal/">https://chugokukeiren.jp/proposal/</a>
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	ファイナンス基礎（Q2）
担当教員氏名	高橋 陽二
研究室の場所	1473研究室
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応します。必ず事前にアポイントメントを取ってください。
E-mail/HP	y_takahashi@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別	選択必修
履修要件	1 年次
免許等指定科目	
キーワード	金融 財務諸表 金利 リターン 為替レート 物価水準 名目・実質 割引率 現在価値 将来価値 完全市場 一物一価の法則 効率的市場仮説 正規性 リスク回避 効用 CAPM アノマリー
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力（◎） 思考力（○） 事業想像力（ ） 実践力（ ）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識 ファイナンスに関する基本的な知識及び考え方が説明できる。</p> <p>■分析力 ファイナンスの知識及び考え方にに基づき、財務上の意思決定が好ましいのかどうか分析できる。</p> <p>■思考力 ファイナンスの視点から、ビジネスの課題や問題点を考察できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 「ファイナンス基礎」は、カリキュラム上、基礎科目として位置付けられ、本授業以降に開講される「ファイナンスA」、応用科目の「ファイナンスB」、「スモールビジネスのファイナンス」等、財務上の意思決定に関連する科目の初学者向けの「超」初級編である。基礎科目の「アカウンティング」、「ビジネス統計」等とも関係がある。</p>
授業の内容	ファイナンスとは、金融市場に関わるあらゆる人々に対して意思決定を支援するために構築されてきた。一般的なMBA では、主としてコーポレートファイナンス（該当科目「ファイナンスA」「ファイナンスB」）を扱うが、ファイナンスに共通する基本的な知識及び考え方がある。「ファイナンス基礎」では、これまでファイナンスを勉強したことがない人やファイナンスを最初から学び直したい人等の初学者を対象に、上記したファイナンスに共通する基本的な知識及び考え方をしっかり丁寧に勉強する。ファイナンスの基礎を固めることを重視する。そのため、中間試験及び期末試験に対する成績評価の割合が大きい。
成績評価の方法	<p>（１）授業への貢献度（授業内での質疑応答、解答状況など）：１０％</p> <p>（２）中間試験：３０％</p> <p>（３）期末試験：６０％</p>
テキスト	<p>俊野雅司・白須洋子・時岡規夫『ファイナンス論・入門』有斐閣、2020年</p> <p>田中慎一・保田隆明『あわせて学ぶ会計&amp;ファイナンス入門』ダイヤモンド社、2013年</p> <p>なお、俊野他(2020)の第Ⅰ部及び田中・保田(2013)は、本科目の大部分を占める内容である。そのため、購入された方が学習しやすいと思われる。また、田中・保田(2013)は、本授業以降に開講される「ファイナンスA」、「ファイナンスB」のテキストでもあるので、今後の履修計画を考慮し、購入の有無を判断されたい。</p>
参考文献	備考を参照してください。随時、授業中にも紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	初学者に向けていくつか参考文献を紹介する。新書であれば、石野雄一『ざっくり分かるファイナンス』（光文社、2007 年）、森生明『会社の値段』（筑摩書房、2006 年）が、昔からよく読まれている。著書では、新倉祐介『ファイナンス思考』（ダイヤモンド社、2018 年）、同『ゼロからわかるファイナンス思考』（講談社、2022 年）、石野雄一『超ざっくり分かるファイナンス』（光文社、2022 年）はよく出来ている。担当教員が関わった著書である『知識の基盤になるファイナンス』（共著、中央経済社、2018 年）も参考になるだろう。なお、授業の内容は、履修者の関心や理解度に応じ

て変更する可能性がある。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】本科目を開講して以来、例年よく似た評価を受けている。本科目の意図を理解したうえで、主体的に取り組んでいる学生がいる一方で、お客様目線で評価している学生もあり、ファイナンス科目の特徴でもある、評価が二分するという典型的な結果であると考える。そのため、想定通り、評価点が平均より低い。アンケートのなかにあった単位認定外にするという案は、初学者のみを相手に振り切った授業が可能という意味でいいアイデアである。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	ガイダンス 金融の仕組み 財務諸表の活用	シラバスを読んでおく。 俊野・白須・時岡(2020)第1 - 2章を読んで基本問題・発展問題を解答しておく。田中・保田(2013)Part 2を読んでおく。
	第2回	ファイナンスの基礎概念（金利、リターン、為替レート、物価水準の変化と名目・実質）	俊野・白須・時岡(2020)第3章を読んで基本問題・発展問題を解答しておく。
	第3回	アカウンティングとファイナンスの関係 割引率と現在価値・将来価値	田中・保田(2013)Part 1、俊野・白須・時岡(2020)第4章を読んで基本問題・発展問題を解答しておく。
	第4回	中間試験	俊野・白須・時岡(2020)第1 - 4章を復習しておく。
	第5回	中間試験の答え合わせ（割引率と現在価値・将来価値の復習を中心に） ファイナンス論の想定する世界（完全市場、一物一価の法則、効率的市場仮説、正規性、リスク回避）	俊野・白須・時岡(2020)第5章を読んで基本問題・発展問題を解答しておく。
	第6回	ファイナンス論の歴史（効用、期待効用、CAPM、マルチファクターモデル、アノマリー、行動ファイナンス）	俊野・白須・時岡(2020)第6章を読んで基本問題・発展問題を解答しておく。
	第7回	企業経営とコーポレートファイナンス	俊野・白須・時岡(2020)第13章を読んで基本問題・発展問題を解答しておく。田中・保田(2013)Part 1、3を読んでおく。
	第8回	期末試験 期末試験の答え合わせ	俊野・白須・時岡(2020)第I部、第13章を復習しておく。田中・保田(2013)Part 1、2を復習しておく。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	ビジネス統計（Q2）
担当教員氏名	菅 由紀子
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義・演習
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	ビジネス統計、統計学、機械学習、データサイエンス、平均値・最頻値・中央値、Excel、Pythonプログラミング、データ解析、マーケティング、ロジカルシンキング
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○）分析力（◎）思考力（◎）事業創造力（ ）実践力（○）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識 ビジネス統計に最低限必要な統計の知識、データ処理方法を身につけ、ビジネス統計に必要なデータや統計の指標値を説明できるようになります。</p> <p>■分析力 課題を定義し、アプローチ方法を考えてデータドリブンに課題解決するための分析方法を身につけます。</p> <p>■思考力 分析には仮説思考が不可欠です。あらゆる視点から多角的に俯瞰し仮説検証を行う分析能力を身につけます。</p> <p>■実践力 分析結果に基づき、ビジネス上の意思決定に役立てられるようになります。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 ビジネス統計は、カリキュラム上、基礎科目と位置付けられ、基礎科目のアカウンティング、ファイナンス、マーケティングと関連がある。</p>
授業の内容	<p>ビジネスパーソンが実際に対面する課題をベースに、統計に必要な技術、考え方を学びます。統計のベースを学びながら、データ処理の方法やレポートの作成方法、ビジネス課題に多く見受けられる課題を事例に学んでいきます。授業においては、企業の経営課題やプロジェクトの題材を用いてデータを解析し、企業が行うべき施策を見出すことをチームの中で解析するプロジェクト型の学習を行います。データ処理にはExcelもしくはPython(Google Colabratory を用いる想定)でのデータ処理・集計、分析を想定しています。Excelについては四則演算や基本的な集計関数が実行できること、Pythonに関してはGoogleのアカウントを保持していると望ましいです。シラバス作成時点では、解析対象のデータは受講生の方々と相談しながら企業の意思決定の場面において活用されるデータセットを検討する予定です。また、令和7年度はデータ処理・解析の実行とレポート作成に際してグループで行うことを想定しておりますが、これも受講生の皆さんの希望を伺って決定します。変更がある場合は変更時点で受講生の皆さんにお知らせします。</p>
成績評価の方法	<p>（１）授業への貢献度（質疑応答、グループワークの取組姿勢など）：３０％</p> <p>（２）課題及びプレゼン：６０％</p> <p>（３）ミニテスト：１０％</p>
テキスト	<p>講師オリジナル作成のテキストをメインに使用します。事前配布は行いませんが、参考として昨年度の授業資料を初回授業で配布します。参考図書は各自読んでいただくと、より理解が深まります。授業で提供するオリジナルテキストは授業終了後に配布しますが、Excelの基本操作などに不安がある方は自ら基本操作の書籍を調べ、学習しておくこと。</p>
参考文献	<p>「44の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」（オーム社）上田 拓治（著）</p> <p>「まずはこの一冊から 意味がわかる統計学 (BERET SCIENCE) 石井 俊全（著）</p> <p>「イシューからはじめよー知的生産の『シンプルな本質』」（英治出版）安宅和人（著）</p> <p>「データサイエンティスト協会スキル定義概説書」（独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）一般社団法人 データサイエンティスト協会 監修 <a href="https://www.ipa.go.jp/files/000083733.pdf">https://www.ipa.go.jp/files/000083733.pdf</a></p>

	「最短突破 データサイエンティスト検定(リテラシーレベル)公式リファレンスブック」 菅 由紀子 (著), 佐伯 諭 (著), 高橋 範光 (著), 田中 貴博 (著), 大川 遥平 (著), & 8 その他
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	講師作成のテキストは、各回実施後に配布します。また、授業実施の期間中にデータサイエンスの領域や統計に関する大きなトピックがあった際には授業の構成を見直します。データ解析・レポートの作成には授業の受講時間以外の対応時間が必要になることを理解のうえで受講してください。総務省統計局主催「データサイエンス・オンライン講座 社会人のためのデータサイエンス演習」とは重なる部分が多くあります。動画視聴・受講を推奨します。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	AI時代のビジネスにおける意思決定の精度を高めるデータの活用・ビジネス統計	参考文献「ビジネスに活かす統計入門」第1章、第2章を読んでおく、データ活用の必要性がより深く理解できる。また、データ活用の企業における事例を調べておく、興味関心のある題材や分野について調べておく以降の課題の取り組みに有用。生成AIの活用事例なども紹介。
	第2回	統計学とデータ分析の基礎（データの見方 基本統計量、代表値） Pythonの基本操作、生成AIの活用方法	基本統計量とは何かを事前に調べ、白書や各種統計資料について調べておく。Google Colabratory の基本操作、Pythonの基本操作について事前配布教材を見て理解しておく、もしくはWeb動画等で検索し視聴しておく。生成AIを用いた処理方法も紹介予定。
	第3回	分析課題の設定と分析アプローチの設計、課題の設定	最終課題として扱う題材案と、必要なデータを選定する演習を予定。興味関心のある題材で学習したい受講生は、この回までに題材を用意しておくこと。
	第4回	統計学とデータ分析の基礎（正規分布、単変量解析、標準偏差、分散、偏差値を求める、ヒストグラムとは何かを理解する）	参考文献「まずはこの一冊から 意味がわかる統計学」の第1章が参考となる。
	第5回	統計学とデータ分析の基礎 演習：Excel / Pythonを用いて単変量解析を実行する	Google Colabratory の基本操作、Pythonの基本操作について事前配布教材（第3回までに配布）を見て理解しておく、もしくはWeb動画等で検索し視聴しておく、Excelの四則演算や基本的な関数について理解しておく
	第6回	統計学とデータ分析の基礎 （2変量解析、相関係数、回帰分析）	参考文献「まずはこの一冊から 意味がわかる統計学」の第3章が参考となる。また、第3回に配布の講師作成のテキストを読み返しておく、より理解が深まる。
	第7回	統計学とデータ分析の基礎 演習：Excelを用いた2変量解析、回帰分析の実行	講師作成のテキストを読んでおくこと、Google Colabratory の基本操作、Pythonの基本構文を復習しておくこと
	第8回	統計学とデータ分析の基礎 時系列解析	参考文献「データサイエンティスト協会 スキル定義概説書」全編が参考となる。また、身近な「時を伴って変化するデータ」を探しておくこと。
	第9回	演習：課題のための分析に必要なデータ集計・分析	最終課題として扱う題材案と、必要なデータを選定する演習を予定。興味関心のある題材で学習したい受講生は、この回までに題材を用意しておくこと。
	第10回	仮説検定の基本 t検定	講師作成のテキストを読んでおくこと。参考文献「ビジネスに活かす統計入門」第3章・第4章も参考となる。
	第11回	仮説検定の基本 χ乗検定	「44の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」P124～125が参考となる。可能であれば仮説検定を行う課題を探しておくこと
	第12回	データ分析レポートの書き方と可視化のテクニック	データを用いた解析レポートの基本構成や、可視化の基本について学びます。
	第13回	演習：プレゼン課題のための分析に必要なデータ集計・分析	これまでの学習内容を振り返り、プレゼンのためのデータ処理工程計画を立案。計画立案について概要を考えておく
	第14回	演習：プレゼン課題のための分析に必要なデータ集計・分析	これまでの学習内容を振り返り、プレゼンのためのデータ処理・分析を進めておく
	第15回	プレゼン	これまでの学習内容を振り返り、プレゼンのためのデータ処理・分析を進めておく
	第16回	結果講評	これまでの学習内容、とりわけ分析結果のプレゼンテーションに必要な事項を振り返っておくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	ベンチャーの経営戦略（Q2）
担当教員氏名	古我 知史
研究室の場所	
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	
E-mail/HP	学生便覧参照
授業形態	対面
授業の形式・方式	集中講義（対面とオンライン）、全体及びグループ討議（対面とオンライン）、ワークショップ（自主的活動含む）及びゲストスピーカー（起業家とVC関係者）
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	スタートアップ、アントレプレナー、アントレプレナーシップ、リーダーシップ、第四次産業革命、ユニコーン、テクノロジー、ハイパサイクル、ベンチャーのライフサイクル、ビジネスモデル、マネタイズ、エフェクチュエーション、プロトタイピング、トライ&エラー、ピボット、マーケティング、エクイティファイナンス、ベンチャーキャピタル
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○）に関する到達目標：時代とセクターを超えたより多くの様々なベンチャーとアントレプレナーの事例に関する知識を獲得する。</p> <p>分析力（○）に関する到達目標：事業仮説の論理的な可能性と成功に向けた主要課題やリスクを想定する基本的な分析を行う。</p> <p>着眼力（◎）に関する到達目標：不確実性に満ちた未来世界に潜む事業機会を多様なアプローチから仮説として抉り出す技術と姿勢を得る。</p> <p>思考力（◎）に関する到達目標：事業仮説のビッドなストーリープロトタイピングを描き具体的なビジネスモデルに落とし込む実践を行う。</p> <p>事業創造力（◎）に関する到達目標：多様なメンバーとの討議を重ねてチームで実現可能且つ挑戦的な事業仮説を練り上げていく止揚の経験をする。</p>
授業の内容	<p>まずは、そもそもの現代社会の資本主義経済での成長とは何かを一緒に考えることから始め、ベンチャーのライフサイクルやベンチャーの実態について知識として学ぶ。次に、未来の事業機会をつかむための鍵</p> <p>となる勃興するベンチャー（ユニコーン含む）の事例研究や第四次産業革命と背景となるテクノロジーの解釈や自主探索研究を行い、これらの活動をもとにグループ分けしたワークショップで疑似的起業活動に入る。ワークショップでは着眼セッションを実際のベンチャーコミュニティでのアプローチ手法を利用して取り組み、仮説を発散させ、論理的に収れんしつつストーリープロトタイピングを通して検証することで、一つの有望な事業仮説とビジネスモデルに落とし込む。ベンチャーの経営戦略において基本となる戦略やマーケティング、ビジネスモデル、ファイナンスのエッセンスは講義と自習を通して主体的に会得する。また、現在進行形のベンチャーコミュニティで活躍するアントレプレナーやベンチャーキャピタリストなどのゲストスピーカーとの交流を通じて生の現場からのインスピレーションと示唆を得る。これら全体がシナジーをもって融合することで、アントレプレナーシップと起業を左脳と右脳と心とともに体得する。</p>
成績評価の方法	<p>講義中の講師やゲストスピーカーとの議論への参画と貢献：30%</p> <p>事例研究やテクノロジー探求活動、個人の事業構想（リポート）：40%</p> <p>ワークショップでの自主的参画と貢献（複数回のプレゼンテーション）：30%</p>
テキスト	講義時に投影もしくは配布する資料によって行う
参考文献	<p>参考図書として『リーダーシップ螺旋』（見洋書房）、『もう終わっている会社』（Discover21）、『いずれ起業したいなと思っているきみに17歳からのスタートアップの授業』『アントレプレナー列伝エンジェル投資家は起業家のどこを見ているのか』（BOW BOOKS）、すべて古我知史著。その他は講義中に適宜紹介をする</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>自ら起業を目指す者、ベンチャー企業の執行役員志向の者、家業の継承発展を目指す者、組織の中であって革新的な事業開発を目指す者を主に対象とする。未知の未来の新しいビジネスの可能性を、楽しみながら本質的に考え抜き、仲間と共に議論を尽くしながらとことん追求する、意志を持った好奇心に溢れる人財の参画を望む。パソコンやスマホはワークショップ中に利用するので必携とする。講義はインタラクティブセッション、自律的・主体的に編成するチームによる疑似的スタートアップのワークショップを、受講生の内にあるアントレプレナーシップに火をつけ、コミットメントを引き出し、実行する。最新のベンチャーコミュニティの動向や事例の検証や洞察を深めたい。毎年度、一人或いは一組以上の起業家・スタートアップの出現を強く期待し、伴走指導する所存である。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】例年同様熱心に参画し、互いに刺激し合い、疑似スタートアップ活動に取り組んでくれました。アントレプレナー候補たり得る人財は2人いました。他の生徒も組織人としてアントレプレナーシップを持ったチャレンジをされると期待します。引き続き同様の取り組みをよりパッションを持って続けたいと考えます。</p>

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	資本主義のテーマとベンチャーのライフサイクル	自身で発想する新規事業アイデアの持参、及び、自分なりのアントレプレナー像を考える
	第2回	アントレプレナーシップと未来の事業機会（仮のチーム分け）	（第1回と第2回は同日連続授業）尊敬し得る、ロールモデルとする起業家を挙げ、その理由を考えてくる
	第3回	ユニコーンベンチャー等の事例研究発表と討議	世界のユニコーンベンチャー等の事例研究と第四次産業革命に寄与するテクノロジーの自主的研究
	第4回	ワークショップ①先進的かつ野心的ベンチャーからの学び	（第3回から第6回は同日連続授業）世界のユニコーンベンチャーや先進的ベンチャーなどの事例を各チームで調査し、バワボにまとめる
	第5回	テクノロジーの研究発表と討議	（第3回から第6回は同日連続授業）第四次産業革命のバックボーンとなっている主要な最新テクノロジーについて各チームで調べ、バワボ等にまとめる
	第6回	ワークショップ②テクノロジー（シーズ）のニーズ解釈（最終発表へのチーム分け）	（第3回から第6回は同日連続授業）過去のテクノロジードリブンでの革新的事業開発の事例を調べてくる
	第7回	新規事業開発アプローチと事業着眼の手法Ⅰ	チームでの事業アイデアの最初のロングリストづくり マイクロトレンドの観察とSFからの着想
	第8回	事業着眼の手法Ⅱ	（第7回から第10回は同日連続授業）注目すべき画期的な過去の事業着眼の事例についてチームで議論し、取りまとめる
	第9回	ワークショップ③事業着眼による事業仮説づくり	（第7回から第10回は同日連続授業）マイクロトレンドの事例やSFから着想を得た事業アイデアをチームでリスト化してくる
	第10回	アントレプレナーまたはベンチャーキャピタリストによる講演と討議（予定）	（第7回から第10回は同日連続授業）事前にアナウンスする講演者について事前に調査し、質問事項をまとめる
	第11回	新規事業評価の要点と投資決定の考え方	チームで取り組みたい事業仮説のロングリストをつくって臨む
	第12回	ベンチャーの資金調達とコーポレートファイナンス	（第11回から第14回は同日連続授業）ベンチャーファイナンス（直接金融）とデットファイナンスの違いについての疑問点をまとめる
	第13回	ワークショップ④有望な事業仮説への取れん	（第11回から第14回は同日連続授業）成長性のある事業とはどういう条件を備える必要があるかを自ら考えて臨む
	第14回	ワークショップ⑤ストーリープロトタイピングと検証	（第11回から第14回は同日連続授業）自らの顧客体験を通して生活の中にとりこまれる新しいプロダクトやビジネスモデルについて考察してくる
	第15回	アントレプレナーまたはベンチャーキャピタリストを招いてのチームビジネスプランの発表と質疑応答	チームで意思決定した有望な事業仮説の最終プレゼンテーションの準備
第16回	アントレプレナーまたはベンチャーキャピタリストを招いてのチームビジネスプランの発表と質疑応答、並びに、振り返りとラップアップ	（第15回と第16回は同日連続授業）事前の指示したビジネスプランづくりのひな形や方法論について復習してくる	
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ループリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	企業法務（Q2）
担当教員氏名	安達 巧
研究室の場所	1476研究室（「教育研究棟1」の4階）
連絡先電話番号	082-251-9794
オフィスアワー	第2クォーターについては水曜日17:00～18:00
E-mail/HP	tadachi@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	対面
授業の形式・方式	講義・ディスカッション・発表
単位数	1
時間数	
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択必修
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	商法、会社法、民法、経済法、税法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力（◎） 思考力（◎） 事業創造力（○） 実践力（○）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識 企業法務について説明できる。</p> <p>■分析力 企業における法律違反の原因メカニズムを分析できる。</p> <p>■思考力 企業経営の現場において法律に反するか否かを判断できる。</p> <p>■事業創造力 事業創造に際し、社会的に信用を得ることが可能な経営（マネジメント）を実現できる。</p> <p>■実践力 法律に反しない企業経営（マネジメント）を実践できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 基礎科目における選択必修科目の1つであり、「組織マネジメントとコンプライアンス」、「戦略法務」、「上場とコーポレートガバナンス」及び「プロジェクト研究1・2」に繋がる。</p>
授業の内容	※記入不要です
成績評価の方法	レポート型試験40%（40点）、 発表30%（30点）、 平常点（ディスカッションでの発言による授業への貢献等）30%（30点）。
テキスト	特定の書籍をテキストとして使用することはしない。必要な資料は随時配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	ゲストスピーカーの都合上、6月25日（水）の授業を休講とし、6月29日（日）1・2限に振替実施する。

回数	授業計画	準備学習
第1回	イントロダクション、企業活動と企業法務	企業活動において法務がなぜ重要であるかについて考え、調べてみる。



授業計画	第2回	企業活動と企業法務	商品・サービス市場、労働市場及び資本市場における企業法務について調べておくこと。
	第3回	大企業経営における法務と中小企業経営における法務	上場企業に代表される大企業経営における法務と中小企業経営における法務の異同についてまとめておくこと。
	第4回	同族零細企業経営における法務	同族零細企業経営について、法務の視点からまとめておくこと。
	第5回	企業法務の事例研究①ーゲストスピーカー（弁護士）を交えて企業法務の事例に関する質疑応答及びディスカッション①ー	受講生が抱える企業法務（非営利法人の組織法務でも可）の事例を説明できるようにしておくこと。
	第6回	企業法務の事例研究②ーゲストスピーカー（弁護士）を交えて企業法務の事例に関する質疑応答及びディスカッション②ー	受講生が抱える企業法務（非営利法人の組織法務でも可）の事例を説明できるようにしておくこと。
	第7回	企業法務に関する発表①	自らの所属企業や社会を騒がせた企業等の法務に関する事例について発表準備をしておくこと。
	第8回	企業法務に関する発表②	自らの所属企業や社会を騒がせた企業等の法務に関する事例について発表準備をしておくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	組織マネジメントとコンプライアンス（Q2）
担当教員氏名	安達 巧
研究室の場所	1476研究室（「教育研究棟1」の4階）
連絡先電話番号	082-251-9794
オフィスアワー	第2クォーターについては水曜日17:00～18:00
E-mail/HP	tadachi@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	対面
授業の形式・方式	講義・ディスカッション・発表
単位数	1
時間数	
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択必修
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	マネジメント、コンプライアンス、法令、労働法、組織内ルール、社会規範、倫理
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力（◎） 思考力（◎） 事業創造力（○） 実践力（○）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識 組織マネジメントとコンプライアンスについて説明できる。</p> <p>■分析力 組織におけるコンプライアンス違反等の原因メカニズムを分析できる。</p> <p>■思考力 マネジメントの現場においてコンプライアンスに反するか否かを判断できる。</p> <p>■事業創造力 事業創造に際し、社会的に信用を得ることが可能な組織マネジメントを実現できる。</p> <p>■実践力 法律や倫理に反しないコンプライアンス経営（マネジメント）を実践できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 基礎科目における選択必修科目の1つである。「企業法務」と繋がっていることに加え、「戦略法務」、「上場とコーポレートガバナンス」及び「プロジェクト研究1・2」にも繋がる。</p>
授業の内容	※記入不要です
成績評価の方法	レポート型試験40%（40点）、発表30%（30点）、平常点（ディスカッションでの発言等による授業への貢献）30%（30点）。
テキスト	竹内朗ほか(編)『企業不祥事インデックス（第3版）』商事法務（2024年）(ISBN：9784785730666)。（※指定テキストは購入必要）他の必要資料は随時配布する。
参考文献	授業時に適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	※記入不要です

回数	授業計画	準備学習
第1回	イントロダクション、組織マネジメントとコンプライアンス	組織マネジメントにおけるコンプライアンスの重要性を確認しておくこと。

授業計画	第2回	コンプライアンス経営	単なる「法令遵守経営」と「コンプライアンス経営」との異同についてまとめておくこと。
	第3回	営利法人（企業）の組織マネジメント	テキスト〔竹内ほか（2024）〕のうち、営利法人（企業）の組織マネジメントに関する事例部分を読んでおくこと。
	第4回	非営利法人の組織マネジメント	テキスト〔竹内ほか（2024）〕のうち、非営利法人の組織マネジメントに関する事例部分を読んでおくこと。
	第5回	大企業等のコンプライアンス経営に関する事例研究	テキスト〔竹内ほか（2024）〕のうち、大企業や大規模組織のコンプライアンス違反に関する事例部分を読んでおくこと。
	第6回	中小企業等のコンプライアンス経営に関する事例研究	テキスト〔竹内ほか（2024）〕のうち、中小企業や中小規模組織のコンプライアンス違反に関する事例部分を読んでおくこと。
	第7回	組織マネジメントに関する発表	自らの所属組織または社会を騒がせた組織（ただし、テキスト掲載組織は除く）の組織マネジメントの問題点及び解決策等につき発表の準備をしておくこと。
	第8回	コンプライアンス経営に関する発表	自らの所属組織または社会を騒がせ組織（ただし、テキスト掲載企業は除く）のコンプライアンス違反事例及び解決策等につき発表の準備をしておくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	経営戦略（Q1・広島）
担当教員氏名	早田 吉伸
研究室の場所	1466研究室
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	土曜日（事前にE-mailにて連絡ください）※その他可能な限り対応可能
E-mail/HP	
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択必修
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	経営戦略理論、フレームワーク、全社戦略、事業戦略、戦略マネジメント、ビジネスモデル
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力（○） 思考力（○） 事業創造力（○） 実践力（◎）</p> <p>■知識： 経営戦略における基礎理論・フレームワークについて理解し、説明できる。</p> <p>■分析力： 経営環境を適切に分析し、ロジカルに課題を指摘することができる。</p> <p>■思考力： 直面する経営課題を解決するための方針や戦略を立案できる。</p> <p>■事業創造力： 課題解決の方針に従って、行動可能な具体的な活動シナリオ・計画を立案できる。</p> <p>■実践力 自らの言葉で実践の意義を語り、周囲を巻き込むことができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 基礎科目に位置付けられる。</p>
授業の内容	<p>本授業は、経営戦略の基礎的な理論やフレームワークを習得するとともに、グループワークを通じて、その内容を実務の中で使えるよう学習する。講義は、レクチャーとグループワークを交互に行い、知識習得にとどまらず、使えるスキルにしていくことを目指す。受講者自らの職務経験やそこから生じる問題意識をもとにした対話をベースに講義を行い、経営戦略に対する理解を深めていく。全体の流れとしては、まずは、基本的な経営戦略の意義と基本概念、事業戦略、全社戦略について、経営理論やフレームワークをおさえながら学習する。次に、今日的な課題である戦略マネジメント、企業変革、ビジネスモデルについて、最新の事例なども交えて学習する。最後に、受講者ひとりひとりの経営課題を取り上げ、これまでの学習内容をもとに、解決策を立案しプレゼンテーションする。</p>
成績評価の方法	<p>クラス&amp;グループワークへの積極的参加および貢献度：20%</p> <p>課題（レポート含）：30%</p> <p>個人プレゼンテーション：50%</p>
テキスト	<p>講義はパワーポイント（PDF）資料で行う。</p> <p>そのほか、必要な資料については随時配布する。</p>
参考文献	<p>・伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門（第3版）』日本経済新聞社（2003年）</p> <p>・琴坂将広『経営戦略原論』東洋経済新報社（2018年）</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>受講者自らの職務経験を振り返り、これまでの経験を生かした活発な議論を期待します。</p> <p>※授業の中で、実務家講師による具体的な事例の紹介についても試みる予定。そのため、シラバス記載の内容が変更になる可能性がある。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】総合的な満足度等の評価から、概ねの授業内容は問題ないと考えられる。</p> <p>一方で、単位数を2単位から1単位にし、授業日数を減らした関係で「詰め込み感があった」とのコメント等がみられた。そのた</p>

め教材のコンテンツ量を見直したい。

また、課題等のフィードバックは全体の授業終了後（アンケート記入後）のタイミングで個別に実施しているが「課題のフィードバックがほしい」とのコメントがみられたことから、タイミングを前倒しするように工夫したい。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	イントロダクション 経営戦略の意義	自分の所属する組織における経営戦略を調べておくこと（人に説明できるようにまとめておく）
	第2回	経営戦略の活用	自分自身の職業体験を振り返り、経営上の課題を洗い出しておくこと
	第3回	イノベーションとビジネスモデル	自分の所属する組織におけるビジネスモデルとそのほか気になるビジネスモデル1ケースについて調べておくこと（人に説明できるようにまとめておく）
	第4回	ビジネスモデル：事例分析	事前に配布するグループワーク用資料を読んでおくこと
	第5回	企業変革とリーダーシップ	自分自身の職業体験を振り返り、組織マネジメント上の課題を洗い出しておくこと（人に説明できるようにまとめておく）
	第6回	企業変革：事例分析	事前に配布するグループワーク用資料を読んでおくこと
	第7回	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションの準備をしておくこと ※準備の仕方については初回講義にて説明
	第8回	プレゼンテーション(2) まとめ	プレゼンテーションの準備をしておくこと ※準備の仕方については初回講義にて説明
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	経営戦略演習1（Q3・金）
担当教員氏名	中村 嘉雄
研究室の場所	1467
連絡先電話番号	082-251-9768
オフィスアワー	9：00～17：00
E-mail/HP	y-nakamura@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	対面
授業の形式・方式	講義、グループワーク
単位数	1
時間数	8
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	1年次
免許等指定科目	特になし
キーワード	地域中小企業の経営戦略、経営革新、成長戦略
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（ ）分析力（○）思考力（◎）事業創造力（◎）実践力（○）</p> <p>■分析力・・・分析に関する基本認識を深め、経営環境や市場・競合・自社を分析するスキルを高める。</p> <p>■思考力・・・効果的な経営戦略、経営革新、成長戦略を立案するためのステップと各ステップの要諦に沿った思考力を身に付ける。</p> <p>■事業創造力・・・経営戦略全般に関する知識やフレームワークをベースとし、新事業活動・新事業展開を提案・説明できる。</p> <p>■実践力・・・立案した戦略を現場で効果的に推進する手法を理解し、それらを実践するための基礎を身につける。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】</p> <p>「経営戦略演習1」は、カリキュラム上、基礎科目として位置付けられる。</p>
授業の内容	<p>HBMS基礎科目「経営戦略」の講義を踏まえ、実在する中小企業の経営戦略（ビジネスプラン）を立案・推進するための実践力を養成することを目的とする。そのため、効果的な経営戦略を立案・推進する上で鍵となるポイントを理解し、それを踏まえた経営戦略（ビジネスプラン）を立案・推進するスキル・能力を育む。</p> <p>このように「理論」と実在企業における経営戦略策定を通じた「実践型教育」による「理論と実践の融合化」により、現場体験及び理論構築の場を提供する。</p> <p>授業日ごとに具体的な手法と企業事例を学習する。</p> <p>具体的な手法や企業事例に関する講義に加え、企業経営者との議論を通じて、経営戦略に対する理解を深め、現場で使える知識・スキルへと昇華させる。</p> <p>また、3～4人のグループに分かれ、実際の企業を題材とした経営戦略（ビジネスプラン）を検討・立案する演習を行う（演習の具体的な内容は、第1回目の講義で説明）。</p>
成績評価の方法	<p>授業中の議論への参加・授業への貢献：40%</p> <p>3～4人のグループによる経営戦略演習の成果物30%</p> <p>期末レポート：30%</p>
テキスト	<p>課題図書等を履修予定者に別途案内予定</p> <p>授業時又は授業の前後に必要な資料を配付</p>
参考文献	随時授業の中で紹介する予定
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HBMS基礎科目「経営戦略」を履修済であることが望ましい。または、それらの知識を保有していること。</li> <li>・積極的な姿勢で授業に参画、貢献すること。</li> </ul> <p>【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】授業時間内でのグループワークの効率的な実施を目指していきます。演習科目ではありますが、必要に応じて参考図書を紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題が早い段階で示されて良かったという意見を踏まえ、今年度も同様にしたいと考えています。</li> <li>・演習でグループワークがメインになりますが、今年度は作業時間のある程度確保した上で、講義の時間を少し増やします。</li> <li>・社内ベンチャーとスタートアップの2グループに分かれましたが、今年度はケーススタディが中心になります。</li> <li>・今年度はターゲットが明確になりますので、より具体的な評価軸を共有できると思います。</li> </ul>

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	・オリエンテーション、自己紹介  ・講義：経営戦略の理論と実践（授業概要） 企業の実業構想と戦略の策定について 市場の分析と顧客価値創造、想定市場の設定（マーケティング戦略の策定） フレームワークの活用（SWOT分析等の活用）	「経営戦略」の手法について、事前に調べておく。
	第2回	・グループワーク：中小企業における経営戦略の事例研究①	授業で使用するテキスト及び資料等の確認 （次回までに関係箇所を目を通しておく） 各グループで情報・資料の収集・整理
	第3回	・グループワーク：中小企業における経営戦略の事例研究①	グループ内での協議 情報収集、資料作成、進捗状況の確認
	第4回	・グループワーク：中小企業における経営戦略の事例研究①	事例対象企業の経営戦略（ビジネスプラン）のプレゼン準備・発表
	第5回	・グループワーク：中小企業における経営戦略の事例研究②	授業で使用するテキスト及び資料等の確認 （次回までに関係箇所を目を通しておく） 各グループで情報・資料の収集・整理グループ内での協議
	第6回	・グループワーク：中小企業における経営戦略の事例研究②	グループ内での協議 情報収集、資料作成、進捗状況の確認
	第7回	・グループワーク：中小企業における経営戦略の事例研究②	事例対象企業の経営戦略（ビジネスプラン）のプレゼン準備・発表
	第8回	・中小企業における経営戦略の事例研究③ ・演習の振り返りと全体講評 ・まとめと展望 ・事例③の関する個人レポートの作成	レポートに関する資料の収集・作成
授業計画	授業内容は、状況によって順序の変更等があります。		
シラバス備考	質問・意見等がある場合は、オフィスアワーに研究室（1467）へお越しください。 ※不在の場合もありますので、事前にメール等でアポイントを取るようになしてください。		
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	経営戦略演習2（Q5）
担当教員氏名	山梨 広一
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	対面
授業の形式・方式	演習
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	差別化、構造的大局観、具体性と固有性
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（◎） 思考力（◎） 事業創造力（○） 実践力（△）【到達目標】</p> <p>■知識 「経営」「経営戦略」「戦略立案」に関する基礎知識を正しく理解、習得する仕上げを行う</p> <p>■分析力 実際の企業を題材として、経営環境分析に必要な手法やフレームワークを適切に活用できるとともに、その結果から当該企業の経営戦略立案にとって価値が高い意味合いを抽出する能力を学ぶ</p> <p>■思考力 一つの企業における具体的な経営課題の解決の立案などを通じて、枠組みに沿って規律を持って考え抜く思考、一つの対象を多面的に捉える思考、既存の定石や前提条件などを超えた幅広い思考を知り、自分自身でもそれにチャレンジする</p> <p>■事業創造力 事業の成功確率を高めるために求められる重要な要件を理解し、グループ演習においてそれを指向する</p> <p>■実践力 戦略の立案段階においてその戦略の実践力を高めるために踏まえるべき要件を理解する</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 経営および経営戦略に関する科目で学ぶ知識とスキルの習得の仕上げを実際の企業を題材として、講義、演習、経営者との討議を通じて行う</p>
授業の内容	<p>実際に存在する企業を選び、その企業の経営戦略をグループで検討、立案することを通じて、これまでに学んできた様々なことを融合させ、自分たちで経営戦略を考え、作成してみることを通じて、経営と経営戦略に関する理解を多面化するとともに、戦略検討・立案の能力獲得の基礎的なステップとなることを目指す。こうした演習をサポートするために、経営と経営戦略の要諦を基礎と座学を超えた実践例を組み合わせ提供するとともに、優秀な経営者をゲスト講師として招き、その人たちの経験、思い、思考を学ぶことで、論理や手法を超えた経営戦略の深みやツボを学んで頂く。</p>
成績評価の方法	出席20%、授業中の発言30%、グループ演習50%
テキスト	特になし
参考文献	特になし。授業において各受講生からの質問やリクエストに応じて話します
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	特になし

	回数	授業計画	準備学習
--	----	------	------



授業計画	第1回	本科目の目的、内容、スケジュールの説明。「経営」と「戦略」に関する質疑応答・討議	「経営」と「戦略」に関する質問や議論したいことを考えておく
	第2回	「経営」「経営戦略」「戦略立案」に関する最重要ポイントの確認。グループ演習の説明	「経営」と「戦略」に関する質問や議論したいことを考えておく
	第3回	グループ演習検討結果の共有と討議（１）。。経営環境分析	対象企業の経営環境分析の結果を数枚の資料にまとめておく
	第4回	ゲスト講師（１）による講義。。企業経営と経営戦略の実例	
	第5回	ゲスト講師（２）による講義。。企業経営と経営戦略の実例	
	第6回	グループ演習検討結果の共有と討議（２）。。経営課題の抽出と戦略方向性	対象企業の経営課題抽出とそれらを解決する戦略的な方向性案を数枚にまとめておく
	第7回	グループ演習の最終発表と討議	対象企業の経営戦略案を10分程度で発表できるように準備しておく
	第8回	グループ演習の最終発表と討議。科目全体の学びのまとめ	この科目で学んだことに関する質問を考えておく
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	マーケティングB（Q2）
担当教員氏名	江戸 克栄
研究室の場所	1475
連絡先電話番号	082-251-9791
オフィスアワー	土曜日（事前にE-mailにて連絡してください）
E-mail/HP	edo@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	1年次
免許等指定科目	なし
キーワード	消費者行動、市場需要、顧客満足、ライフスタイル
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（○） 思考力（ ） 事業創造力（○） 実践力（○）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識・・・マーケティングのプロセスと基本的政策</p> <p>■分析力・・・市場、顧客、ユーザーやステークホルダーを理解するための分析力</p> <p>■思考力・・・マーケティング・マインドと創造力</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>応用科目として位置付けられ、「マーケティングリサーチ」等のビジネス科目へと応用される科目である。</p>
授業の内容	<p>ビジネスを取り巻く市場や環境が激しく変化している現代社会において、企業が存続・成長していくためにマーケティングの重要性は今まで以上に増している。マーケティングの基本は消費者や市場を理解することである。そのため、講義では、消費者行動の基本（情報探索行動、関与、ライフスタイル、代替案評価）を理論的フレームワークを学んだ上で、市場ニーズや市場需要を予測するための具体的な方法や考え方について学んでいくことを目的としている。</p>
成績評価の方法	日常点：10% 試験およびレポート：90%
テキスト	青木幸弘 他「消費者行動論-マーケティングとブランド構築への応用」、有斐閣アルマ
参考文献	参考文献、参考資料については随時授業中に紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	「マーケティングA」を履修すること。マーケティング入門を受講しておくことが望ましい。積極的な姿勢で授業に臨むこと。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	消費者行動の基本的枠組み 基本的決定要因①社会・文化的要因	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。
	第2回	消費者行動の基本的枠組み 基本的決定要因②個人・心理的要因	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。
	第3回	消費者行動の基本的枠組み 購買プロセス①ニーズ発見と情報探索行動	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。
	第4回	消費者行動の基本的枠組み 購買プロセス②代替案評価と計画購買	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。
	第5回	顧客満足とその概念	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。

	第6回	消費者のライフスタイル研究	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。
	第7回	マーケティング戦略のための市場需要予測① 消費者のファネル構造	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。
	第8回	マーケティング戦略のための市場需要予測② 潜在市場と市場需要予測	事前にレジュメ及び講義資料を配布するので、わからない用語等については調べてくること。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	イノベーション戦略（Q2）
担当教員氏名	生稲 史彦
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	対面
授業の形式・方式	講義
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	イノベーション、技術経営、ICT(情報通信技術)
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>【授業の目標】  知識（◎） 分析力（◎） 思考力（◎） 事業創造力（ ） 実践力（ ）</p> <p>【学生の到達目標】  ■知識  1. イノベーションと言う現象がなにを意味するのかを説明できる。  2. イノベーションが企業経営に及ぼす影響を説明できる。  3. ICTとイノベーションの関係を説明できる。</p> <p>■分析力  1. 過去に実現したイノベーションの事例を読み解き、どのようなメカニズムが作用したのかを指摘できる。</p> <p>■思考力  1. イノベーションに繋がる企業行動を構想し、妥当性を判断できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】  1年前期の基礎的な講義内容を取りまとめ、さらに深く思考するために、イノベーションを切り口に説明とディスカッションを行う。2年次の専門科目および実践科目の中で、本講義で学んだことや考えたことを活かせるような講義を目指す。  この講義の受講に当たっては、経営戦略とマーケティングAを履修済みであることが望ましい。</p>
授業の内容	<p>経済社会をより豊かなものにするために、イノベーションへの期待が高まっている。しかしながら、イノベーションは複数の企業や団体組織、地域などを巻き込んで進む、複雑な社会現象である。したがって、経営学などの理論に基づいてイノベーションを理解し、構想した方が良いと考えられる。そうした知的基盤があってこそ、自社や地域、そして社会を良くしたいという意欲が実りある結果をもたらすと考えるからである。この講義では、イノベーションという概念の意味内容(基礎的な知識)から説明する。その上で、イノベーション・パターンや業界標準、アーキテクチャやプラットフォームなどのトピックまで説明する。基礎から応用へ、全体像から個別のトピックまでカバーする。こうした知識を、ケース・ディスカッションとグループワークで使ってみることを通じて、受講者が過去のイノベーションのメカニズムを読み解き、自らの状況において将来のイノベーションを構想するための分析力を養うことを目指す。</p> <p>講義の終盤では、以上の知識と分析力を発揮して、自社や地域の現状をイノベーションへと結びつける思考を促したい。具体的には、「自社の取り組みはいかにすればイノベーションに繋がるのか」「広島という地域を起点にしたイノベーションとはなにか」といった課題を、受講者とともに考えていきたい。</p>
成績評価の方法	期末レポートによって評価する(100%)
テキスト	近能善範、高井文子(2024).『コア・テキスト イノベーション・マネジメント<新訂版>』新世社.(ISBN: 978-4883843862) 生稲史彦、高井文子、野島美保(2021).『コア・テキスト 経営情報論』新世社.(ISBN: 978-4883843312)

参考文献	<p>一橋大学イノベーション研究センター編(2001).『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社.(ISBN: 978-4532132231)</p> <p>一橋大学イノベーション研究センター編(2017).『イノベーション・マネジメント入門〈第2版〉』日本経済新聞社.(ISBN: 978-4532134747)</p> <p>延岡健太郎(2006).『MOT[技術経営]入門』日本経済新聞社.(ISBN: 978-4532133214)</p> <p>伊丹敬之(2001).『創造的論文の書き方』有斐閣.(ISBN: 978-4641076495)</p> <p>清水洋(2019).『野生化するイノベーション: 日本経済「失われた20年」を超える』新潮社.(ISBN: 978-4106038457)</p> <p>清水洋(2024).『イノベーションの科学 創造する人・破壊される人』中公文庫.(ISBN: 978-4121028310)</p> <p>清水洋(2016).『ジェネラル・パーパス・テクノロジーのイノベーションー半導体レーザーの技術進化の日米比較』有斐閣.(ISBN: 978-4641164697)</p> <p>立本博文(2017).『プラットフォーム企業のグローバル戦略ーオープン標準の戦略的活用とビジネス・エコシステム』有斐閣.(ISBN: 978-4641165014)</p> <p>生稲史彦(2012).『開発生産性のディレンマーデジタル化時代のイノベーション・パターン』有斐閣.(ISBN: 978-4641163874)</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>講義内容を、自社(自組織)の状況と結びつけながら考えて、講義に積極的に参加してほしい。</p> <p>※講義計画は、講義の進捗に応じて変更される可能性がある。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】アンケートを拝読してアンケートを拝読して、多くの学生さんが熱心に講義に取り組み、講義内容を積極的に吸収してくださったことを感じました。担当した教員として、とてもうれしく思います。</p> <p>他方で、講義外の学習とその内容については不満が残ったようにも見受けられます。お仕事をしながら講義を受ける学生さんの忙しさと、集中講義であることによる期間の短さなど、考慮すべき要素が複数ありますので、それらを総合的に考えて講義前後の課題を考えたいと思います。</p>

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	イントロダクション ーイノベーションとはなにか	近能・高井(2024)の第1章に目を通しておくこと。
	第2回	<グループワーク> イノベーションという概念を使う	自社がどのようなビジネスを展開しているのか、簡潔に説明できるようにしておくこと。
	第3回	イノベーションと時間 ーイノベーションのプロセス/イノベーションのパターン	近能・高井(2024)の第2章と第3章に目を通しておくこと。
	第4回	<ケース・ディスカッション> イノベーションに繋がる企業行動	事前配布のケース教材を読んでおくこと。
	第5回	イノベーションと企業の競争力 ーイノベーションが企業の競争優位に与える影響ー	近能・高井(2024)の第4章、第5章に目を通しておくこと。
	第6回	製品サービスの設計思想 ーアーキテクチャという考え方	近能・高井(2024)の第8章に目を通しておくこと。
	第7回	<ケース・ディスカッション> 他社と協力して進めるイノベーション	事前配布のケース教材を読んでおくこと。
	第8回	他企業との協調と競争 ー標準のマネジメント	近能・高井(2024)の第7章に目を通しておくこと。
	第9回	企業を超える取り組み ー技術ロードマップ、意図への働きかけ	近能・高井(2024)の第6章に目を通しておくこと。
	第10回	<ケース・ディスカッション> 業界を変えるイノベーション	事前配布のケース教材を読んでおくこと。
	第11回	ITベース・イノベーション ープラットフォームの戦略的活用	生稲・高井・野島(2021)第1章、第12章に目を通しておくこと。
	第12回	<グループワーク> 自社のデータ利活用	自社がどのようなデータを集めることができ、利用できるのかを調べ、その利用方法を考えてみること。
	第13回	イノベーションに向けて ービジネスモデルの設計と変化	近能・高井(2024)の第14章に目を通しておくこと。
	第14回	<ケース・ディスカッション> 新規事業を育む組織	事前配布のケース教材を読んでおくこと。
	第15回	ユーザの役割 ーユーザ・イノベーション、ユーザの組織化	生稲・高井・野島(2021)第15章に目を通しておくこと。
	第16回	<ディスカッション> 自社と広島発のイノベーション	講義内容を踏まえて、イノベーションの可能性を検討しておくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	持続可能な地域資源マネジメント（Q5）
担当教員氏名	吉川 成美
研究室の場所	1468研究室
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	土曜日（事前にe-mailにてアポイントを取るための連絡を下さい）
E-mail/HP	narumiyo@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義・ワークショップ
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	サステナビリティ、サーキュラー・エコノミー、ビジネスモデル
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（○） 思考力（ ） 事業創造力（○） 実践力（◎）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識 地域資源を活用したビジネスが地域経済（生産・流通・サービス・消費）や人の行動変容や生き方に及ぼす影響とその例を幅広く学ぶ。 地域における資源とは何かを把握し、持続可能なマネジメントの方法について事例をもとに、地域の未利用資源へ光を当てる「地域を変えるデザイン」の枠組みや「持続可能性（Sustainability）」について思考を深め、基礎的知識を身に着けることができる。</p> <p>■分析力 時代の変化に適応するための「社会問題の分析」「解決策としての事例」「地域を変えるデザイン」を「持続可能性（Sustainability）」という切り口で分析することができる。</p> <p>■事業創造力 地域ビジネスの成功要因・経営戦略について、具体的な事例を使って評価分析を行うスキルを身につけ、グローバルにも適応・貢献できる事業を企画・立案することができる。</p> <p>■実践力 地域における社会課題解決型ビジネスについて、ビジネスモデルを用いて改善策を提案することができる。</p> <p>【カリキュラムの位置づけ】 「デザインマネジメント」、「SMOフィールドワーク」、「社会イノベーション」と関連する授業である。</p>
授業の内容	<p>地域資源のマネジメントについては、市場のグローバル化のみならず、近年多発する自然災害および生物多様性の変化、そしてそこに暮らす住民のライフスタイルにより大きく左右される。こうしたなか、地域経済の活性化においては、持続可能性（サステナビリティ）を重視する経営体の成長が必要不可欠となってきている。これまで地域資源マネジメントの課題は、コミュニティ主導の「マーケティング力」の弱さや人材不足が指摘されてきた。一方で、近年では地域資源の個性的な文化や在来知を活かし、そうした状況を打開する事例もみられるようになってきた。</p> <p>本講義では地域資源に関わる持続可能なマネジメントについて、地域資源を活用したビジネスが地域経済（生産・サービス・消費）に及ぼす影響とその例を検証する。そして地域における資源とは何かを把握し、持続可能なマネジメントの方法について事例をもとに、「地域を変えるデザイン」の枠組みや「持続可能性（Sustainability）」につながるビジネスモデルの理解を深めることを目的とする。</p> <p>とりわけ欧州のサーキュラー・エコノミー、サスティナブル・ブランド、サスティナブル・トランスフォーメーション（SX）による事業成長事例やその社会的受容性要因を明らかにすることで「地域を変えるデザイン」の理解を深める。さらに各講義に連動したワークショップ、それに連動した課題をつうじて、共感によるコミュニティ形成および資金調達に欠かせないアントレプレナーシップやビジネスマインドを身につけ、効果的なプレゼンテーション力を磨いていく。講義期間中に受講生がビジネスシーンやライフタイムのなかで繋がっていただけるような専門家を招聘し、密に議論する時間を設ける。</p>
成績評価の方法	<p>日常点（授業内での発表を含む） 20%</p> <p>事例検証課題 30%</p> <p>最終課題レポート 50%</p>

テキスト	毎回の講義で、次回までに熟読・熟考しておく資料・動画などをTEAMSにて共有する。
参考文献	寛 裕介『地域を変えるデザイン——コミュニティが元気になる30のアイデア』（英知出版、2011年）
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	「社会問題の分析」「解決策としての事例」「地域再生への影響評価」という一連の手続きを、地域資源マネジメントの切り口で分析する。そのため自然環境・人間環境・社会環境の3点から地域資源（国内外）の現状と課題、成功事例および失敗事例の特徴、プロダクト及びサービスの現状について関心を持って調べ、議論に参加してください。授業での話し合い・進行により、予定を変更する可能性があります。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	ガイダンス：地域資源とは何かー3つの環境（自然・人間・社会）とその課題	地域資源とは何かを把握したうえで、地域資源の開発・利用・管理によるビジネスが地域の経済に及ぼす事例について調べておくこと
	第2回	ワーク：地域を考えるデザイン：社会課題の捉え方とマネジメント事例	社会課題を解決した地域デザインとマネジメントの事例について、指定したテキスト、および開講時に示した資料を事前に熟読しておくこと
	第3回	持続可能性（Sustainability）と地域マネジメントー概念と課題から考える	社会課題を解決した地域デザインとマネジメントの事例について、指定したテキスト、および開講時に示した資料を事前に熟読しておくこと持続可能性（Sustainability）について国連の定義する発展の枠組みについて調べ、持続可能な地域経営についてどのような展開の特徴があるのか国内外の事例を検討しておくこと
	第4回	ワーク：ビジネスデザインの手法	「アイディアソン」「ハッカソン」の手法、事例を説明できるようにしておくこと。また自分だったらどのような手法を選択したいかを考えておくこと。
	第5回	「顧客」から「共創者（共創プレイヤー）」を増やすマネジメント	顧客参加型ビジネスの事例について検討しておくこと
	第6回	ワーク：「コミュニティ熱を高める」消費者参加型ビジネス	生産者と消費者を乗り越えるための持続可能な共創ビジネスについて、その要件について議論できるようにしておくこと
	第7回	サーキュラー・エコノミーの潮流と欧州の事例	授業で指定する参考資料により、サーキュラー・エコノミーに関する事例を検討しておくこと。
	第8回	ワーク：倫理的生産・消費ーエシカルの循環	サーキュラー・エコノミーの事例から持続可能な要因について検討しておくこと
	第9回	サステナブル・ブランドの潮流	国内外のサーキュラーエコノミーの事例を調べ、エシカル消費における評価軸について検討しておくこと
	第10回	ワーク：「サステナブル・トランスフォーメーション（SX）による価値創造ビジネス	SXの定義、普及度合いについて事前に調べておくこと
	第11回	地域の未利用資源の発掘と活用	地域の未利用資源の活用について、社会課題を整理しておくこと
	第12回	ワーク：公共空間・施設を活用した新規ビジネスと持続可能性	持続可能性をどこで評価するかについて、自分の言葉で議論できるようにしておくこと
	第13回	新しいコモンズと共創型ビジネス創造（ゲスト・スピーカー）	未来のコモンズについて考え、新規ビジネスについて事例を分析しておくこと
	第14回	ワーク：地域のもったいないをビジネスにするー「地方創生」による「もったいない」事例	ゲスト・スピーカーの事業戦略・資金調達の事例を予習し、ワークに備えること
	第15回	共感から行動変容を促す手法ー自らの偏見やセルフジャッジを乗り越える	事業構想・計画書作成、資金調達案について準備しておくこと
	第16回	ワーク：確実な根拠と共感によるプレゼンテーションの実践	効果的なプレゼンテーションについて、指定するビッチ動画、TED動画などを視聴しておくこと
授業計画			
シラバス備考	講義アンケートから、ゲスト講師が出した課題に対してゲスト講師からの受講生へのフィードバックをいただけるようにしました。また、講義外でのフィールドワークに関する情報も提供していきたいと考えています。		
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	地域ブランド戦略（Q6）
担当教員氏名	榎野 孝人
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	水曜日18時30分～21時30分（その他適宜）
E-mail/HP	メール kashinotakahito@gmail.com      HP https://www.kashino.net/
授業形態	対面
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	地域ブランド 観光 商品ブランド
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（◎） 思考力（ ） 事業創造力（ ） 実践力（◎）</p> <p>【到達目標】  知識・・・地域ブランド戦略の意図、目的、方法論について理解し、説明できる。  分析力・・・社会の事象を読み解き、成功要因を分析することで、自身の戦略立案に活かすことができる能力を養う。  実践力・・・デザインマネジメントを組み込んだ地域ブランド構築を構想し、具体的な事業提案をできる力を養う。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】  専門科目の「地域資源マネジメント」のなかの一つに位置づけられている。</p>
授業の内容	※記入不要です
成績評価の方法	日常点（授業への参加度）：30% 小レポート（授業中に課される課題の評価）：40% 最終課題：30%
テキスト	講義はレジュメを中心に行い、必要な文献資料は随時配布する。
参考文献	「おいしい！広島県の作り方～広島県庁の戦略的広報とは何か？～」著者：榎野孝人 カナリア書房 発行：2013年 「プロセスエコノミー」著者：尾原和啓 幻冬舎 発行：2021年 など授業のなかで適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	※記入不要です

回数	授業計画	準備学習
第1回	地域ブランド戦略の目的と効果	ブランド戦略とマーケティング戦略の違いを整理しておくこと 対面授業での出席必須
第2回	広島県の地域ブランド戦略を振り返り、今後の展開を考える	広島県の「食」について、お好み焼き、牡蠣、レモンに次いでブランド化できそうな食アイテムをピックアップしておくこと。参考図書「おいしい！広島県の作り方」



授業計画			対面授業での出席必須
	第3回	「せとうち広島レモン」の商品ブランド戦略	せとうち広島レモンのブランド化が成功した理由を分析しておくこと
	第4回	ブランド戦略とデザイン	地方自治体のPRポスターで気になる作品を選び、なぜそれに注目したのか、どう魅力的なのかまとめてくること
	第5回	インバウンドと瀬戸内エリアブランディングの可能性（ゲスト講師：木村麻子）	広島県のインバウンドに対する取り組みを調べておくこと 対面授業での出席必須
	第6回	広島「食」ブランドの戦略立案 発表（樫野・木村）	地方自治体PR動画ベスト3を選び、評価される＆注目されるための共通点は何かをまとめておくこと 対面授業での出席必須
	第7回	「食」ブランド戦略に基づいたPR動画の発表（樫野・広島県観光課参事）	PR映像の制作
	第8回	全体のまとめ（樫野・広島県観光課参事）	授業を通して学んだ地域ブランド戦略を自らの業務、プロジェクト研究テーマにどう生かすことができるか考えてくる
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	デザインマネジメント（Q6）
担当教員氏名	百武 ひろ子
研究室の場所	1470（百武）
連絡先電話番号	
オフィスアワー	水曜日16時～18時（その他適宜）
E-mail/HP	学生便覧参照
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	デザイン デザインマネジメント デザイン思考
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（ ） 思考力（ ） 事業創造力（◎） 実践力（◎）</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・・・デザインマネジメントの意味と意義、方法論について理解し、説明できる。  事業創造力・・・デザインを事業創造の重要な要素として捉え、戦略に位置づけることができる能力を養う。  実践力・・・デザインマネジメントを組み込んだ具体的な事業提案をできる力を養う。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>専門科目の地域資源マネジメントに位置づけられる。</p>
授業の内容	<p>感性的価値の重視を背景に、デザインへの関心は高まりつつある。デザインに対する関心は、モノの外観の美しさといった、狭義のデザインにとどまらず、サービスのデザイン、関係性のデザイン、システムデザイン、プロセスデザインなど多岐にわたっている。矛盾する要素、異なるニーズを統合し、目にみえるかたちで問題解決を行うというデザインの基本機能は、ビジネスにも積極的に導入されている。本授業では、現代社会に求められている「デザイン」の機能とビジネスにおけるデザインマネジメントについて実例を通して理解を深め、ビジネスリーダーに求められるデザインマネジメント力を身につけることを目的としている。授業の最後には、デザインマネジメントのプレゼンテーションを行う。</p>
成績評価の方法	<p>日常点（授業への参加度）：30%</p> <p>小レポート（授業中に課される課題の評価）：30%</p> <p>最終課題：40%</p>
テキスト	講義はレジュメを中心に行い、必要な文献資料は随時配布する。
参考文献	授業のなかで適宜紹介する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	デザインに関する感度を高めて、授業に臨むことを求める。

回数	授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション：ビジネスリーダーに必要なデザインマネジメント能力	デザインの概念や歴史について書かれた書籍を読み、デザイン思想の基礎的な流れについて把握しておく
第2回	デザイン思考とデザイン経営	デザイン思考に関する書籍を読み、その特徴について考察しておく

授業計画	第3回	デザイナーとの協業	自らの業務におけるデザインとデザイン活用の可能性について考察しておく
	第4回	デザインマネジメント実践	デザインマネジメントに関する書籍を読み、デザインマネジメントのポイントについて理解しておく
	第5回	デザインマネジメントの先進事例	デザインマネジメントが成功していると思う企業や商品、サービスの事例について成功の要因についてまとめる
	第6回	ビジネスにおけるデザイナーの役割	デザインマネジメントの成功事例を自らの組織に活用するための課題をまとめる
	第7回	最終発表	授業を通して学んだデザインマネジメントの知識を用いて、与えられた最終課題に取り組む
	第8回	これからのデザインマネジメント	デザインマネジメントの意義と今後自らのデザインマネジメント力を高めるための方法について考える
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	ヘルスケアシステム（Q5）
担当教員氏名	島川 龍哉
研究室の場所	2213研究室
連絡先電話番号	082-251-9735
オフィスアワー	土曜日11:00～13:00 ※メールや電話等での事前予約をお願いします。
E-mail/HP	tshimakawa@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	社会保障、国民皆保険制度、介護保険制度、医療介護総合確保推進法
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力（○） 思考力（○） 事業想像力（○） 実践力（ ）</p> <p>【到達目標】          わが国の社会保障の現状と課題を認識し、医療介護福祉の制度・政策の概要と変遷について理解する。          ■知識          社会保障の意義や実態を知り、医療介護福祉の制度・政策の歴史、現状、課題を説明できる。          ■分析力          医療介護福祉の制度・政策の動向が医療介護事業者の経営に大きく影響することを指摘できる。          ■思考力          医療介護福祉の制度改革による環境の変化が及ぼすビジネスの影響について判断できる。          ■事業創造力          人口減少、高齢化、技術の進歩などを捉えた市場の変化から新しいヘルスケアビジネスの在り方を説明できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】          先端分野となる「ヘルスケアマネジメント」の専門科目となるため、持続可能な地域社会づくりに資するマネジメント能力を養成する。</p>
授業の内容	<p>わが国の社会保障給付費は130兆円を超え、そのうち国民医療費と介護給付費を合わせるとおよそ60兆円となり、今後もしばらく増加が予想される。このような背景のもと、持続可能な社会保障制度を構築するためには、国や地方自治体による高度なマネジメントが求められる。本講義では、限られたリソース（ヒト、モノ、カネ、情報）を最大限に活用するための理論とその実践を深く学ぶことを目的とする。講義では、ヘルスケア分野の制度や政策を包括的に解説し、社会保障制度がどのように構築され、運営されているかを具体的に掘り下げる。国民皆保険制度や介護保険制度といった基幹的な制度の仕組みや課題を体系的に理解し、政策形成や運営における課題を明確にする。さらに、ヘルスケア産業が直面する経営課題についての知識を深めるとともに、グローバル化や技術革新の中で変化する社会保障のあり方を検討する。</p> <p>本講義では、制度や政策を理解するだけでなく、それらがヘルスケアビジネスや地域医療に与える影響について考察することで、現場での課題解決に活かせる知見を得ることを目指す。双方向の議論や事例分析を通じて、受講者が主体的に考え、自らの専門分野で活用できる力を養う。</p>
成績評価の方法	<p>日常点 40%（授業への積極的な発言やディスカッション等の授業への貢献を総合的に評価する）          小レポート 60%（講義で取り上げたテーマについて取り組む）</p>
テキスト	<p>西村淳（編著）『入門テキスト 社会保障の基礎（第2版）』東洋経済新報社、2022年（ISBN 978-4492701546）          ※講義はパワーポイントの資料を中心に説明を行い、必要な文献資料は随時提示、配布する。</p>
参考文献	<p>西田在賢『(新装版)ソーシャルビジネスとしての医療経営学』葉事日報社刊、2019年（ISBN 978-4840815093）          その他参考文献は、講義内で随時知らせる。</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	ヘルスケア分野の経営に関する専門的な知識の理解を深める講義であるが、これらの事業に直接携わっていない者であっても、テキストや参考文献の事前学習を行うことで十分に理解可能な構成としている。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	イントロダクション 講義の概要説明	本講義の概要と単位取得及び成績評価について説明する。本講義に対する自身の関心事を整理してから講義に臨むこと。
	第2回	イントロダクション(続き) 社会保障の歴史と制度体系	第1回と連続授業となる。わが国の社会保障と財政事情について概略を調べておくこと。
	第3回	社会保障の現状と課題	テキスト第1章「社会保障総論」、第10章・第11章「社会保障と行政」を読んでおくこと。
	第4回	社会保障の現状と課題（続き）	第3回との連続講義となる。
	第5回	医療介護政策と保険制度	テキスト第3章「就労支援と労働保険」、第4章「生活保護」、第5章「医療」、第6章「介護」、第7章「障害者施策」を読んでおくこと。
	第6回	医療介護の総合確保推進における地域包括ケアシステムと地域医療構想	医療介護の総合確保推進に関わる厚生労働省ホームページを検索して、制度・政策の特徴を整理しておくこと。
	第7回	かかりつけ医機能と病院マーケティング	かかりつけ医機能に関わる厚生労働省ホームページを検索して、関係する制度・政策の特徴を整理しておくこと。
	第8回	医療介護の制度政策と今後のヘルスケアビジネスの展望	これまでの講義内容を復習し、自身の関心のあるヘルスケアビジネスと国の制度・政策との関連を整理しておくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	ヘルスケア情報のマネジメント（Q5）
担当教員氏名	島川 龍哉
研究室の場所	2213研究室
連絡先電話番号	082-251-9735
オフィスアワー	火曜日17:00～18:00 ※メールや電話等での事前予約をお願いします。
E-mail/HP	tshimakawa@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	情報システムの戦略的運用、EMR（Electronic Medical Record）、EHR（Electronic Health Record）、PHR（Personal Health Record）、DX（digital transformation）
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識 (◎) 分析力 ( ) 思考力 (○) 事業想像力 (○) 実践力 ( )</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識 ヘルスケア分野（健康・医療・介護）における情報技術、関連する制度・政策とビジネスの概要を理解する。 ヘルスケア情報のマネジメントの有用性が説明できる。</p> <p>■思考力 ヘルスケア分野の経営課題を理解し、情報技術を活用した解決策を論理的に判断できる。 独創的かつ付加価値の高い持続可能なヘルスケアサービスの特徴を判断できる。</p> <p>■事業創造力 ヘルスケア情報の種類や特性を理解し、様々なビジネスにヘルスケア分野の情報技術を応用できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 専門科目「ヘルスケアシステム」との関連が深いため、履修済みであることが望ましい。</p>
授業の内容	<p>日本のヘルスケア産業は、医療・介護分野を中心に国内最大級の市場規模を有しており、健康増進や予防医療を含む新たな市場も急速に成長している。しかし、OECD加盟国と比較すると、日本ではヘルスケア分野におけるデジタル化や情報技術（ICT）の活用、そしてそれを支える制度設計が遅れているという課題がある。</p> <p>これまでの日本のヘルスケア分野においては、主に医療を中心にICTが活用されてきたが、今後は健康、医療、介護をシームレスにつなぐサービスの連携が必要である。そのためには、相互運用性Interoperabilityの向上が重要であり、国、自治体、民間企業が連携した取り組みが進められている。一方で、ICTサービスへの投資対効果の評価が十分に進んでおらず、効率的な技術導入や運用が課題となっている。</p> <p>こうした背景から、人口減少と超高齢社会に対応するためには、ヘルスケアサービスの質と生産性の向上が急務である。「情報」や「情報技術」を経営資源として活用し、それらを効果的にマネジメントする手法の構築が求められている。</p> <p>本講義では、ヘルスケア分野における情報技術の進展がもたらす経営課題を理解し、ビジネスモデルや制度・政策との関連性からヘルスケア産業の将来を考察することを目的とする。また、最新の理論と事例を活用し、それらを各受講者のビジネスや実務に応用する力を養成する。講義は講師による知識提供に加え、ディスカッションを通じた双方向の対話を重視し、実践的で応用力のある学びを提供する。</p>
成績評価の方法	<p>日常点 40%（授業への積極的な発言やディスカッション等の授業への貢献を総合的に評価する）</p> <p>小レポート 60%（講義で取り上げたテーマについて取り組む）</p>
テキスト	講義はパワーポイントの資料を中心に説明を行い、必要な文献資料は随時配布する。
参考文献	<p>日本医療情報学会医療情報技術育成部会『医療情報 第7版 医療情報システム編』篠原出版新社（2022年）、</p> <p>一般社団法人日本医療戦略研究センター(J-SMARC) (監修)・角田 圭雄 (編集)『戦略的医療マネジメントーVUCA時代を乗り切るMBA視点』中外医学社（2021年）、その他、参考文献は講義中に紹介する。</p>

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	ヘルスケア分野の経営情報に関する専門的な知識の理解を深める講義であるが、これらの事業に直接携わっていない者であっても、テキストや参考文献の事前学習を行うことで十分に理解可能な構成としている。
---------------------	---

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	イントロダクション：ヘルスケア分野における情報技術の進展	関心のあるビジネスとヘルスケア分野との関わりについて整理しておくこと。
	第2回	保健医療の情報化と制度・政策からみた医療経営情報の必要性	厚生労働省ホームページ「医療分野の情報化の推進について」を検索し、医療介護の政策との関連性を考察しておくこと。
	第3回	病院情報システムと医療経営	経営情報システム（management information system）、戦略的情報システム（strategic information system）の取り組み事例を調べておくこと。また、医療・介護分野のデータの種類と分析事例について調べておくこと。
	第4回	地域連携ネットワークとEHR（電子健康記録）の役割	EHR (Electronic Health Record)サービスの取り組み事例を調べて、地域連携ネットワークの経営課題を整理しておくこと。
	第5回	PHR（個人健康記録）による地域ヘルスケアへの展開	身近にあるPHR (Electronic Health Record)サービス事例を調べて、サービスの特徴を整理しておくこと。
	第6回	情報技術を活用したヘルスケアビジネス ※アントレプレナーによるヘルスケア情報サービス事例紹介	関心のあるビジネスとヘルスケア情報技術を組み合わせたときにどのように付加価値を高めることができるか、各々の考えを整理しておくこと。
	第7回	国の医療DX推進と今後の地域ヘルスケアの展望	厚生労働省ホームページ「医療DXについて」を検索し、今後の地域医療がどのように変化していくか考察しておくこと。
	第8回	Society5.0時代におけるヘルスケア産業の将来像	これまでの講義内容を復習し、ヘルスケア情報のマネジメントの意義と情報マネジメント力を高める方法について整理すること。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	ヘルスケアマネジメント（介護・福祉）（Q6）
担当教員氏名	的打 英明
研究室の場所	
連絡先電話番号	080-2943-3851
オフィスアワー	オンライン面談含め可能な限り随時対応致します。事前にe-mailにてアポイントを取るための連絡を下さい。
E-mail/HP	makotono.info@gmail.com
授業形態	対面
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	介護保険制度、障害福祉サービス、経営持続性、介護福祉現場の生産性向上
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識 (◎) 分析力 (◎) 思考力 (◎) 事業想像力 (○) 実践力 (○)</p> <p>【到達目標】 介護福祉事業の業態別の経営的特徴を理解する。一般企業の経営管理手法に照らしたときの介護福祉事業の経営的特徴や経営管理技法を理解する。</p> <p>■知識…介護保険報酬、障害福祉サービスの報酬構造を理解し、介護福祉事業経営に応用が出来る。</p> <p>■分析力…介護サービス、障害福祉サービス提供施設を類別した上で、介護福祉事業独特の経営分析手法について取り扱う事が出来る。</p> <p>■思考力…一般企業の経営管理手法に照らしたときの介護福祉事業の経営的特徴を判断できる。</p> <p>■事業創造力…介護福祉施設経営の独自性、親和性を理解し、創造的な事業経営モデルを説明できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 専門科目に位置づけられる。</p>
授業の内容	<p>本講義では、介護保険報酬を収入の基軸とした介護、福祉事業経営の実際を学び、事業経営、現場運営の両側面のマネジメント方法を理解する。財務諸表等を見ながら、経営課題を分析し、介護事業独特の経営分析手法の取り扱いを説明する。</p> <p>また、近年、厚生労働省から求められている、介護、福祉現場の生産性を向上させる手法を説明する。実際の介護福祉現場の課題の分析方法、解決手法を実際の事例を交えて紹介する。</p> <p>介護、福祉事業経営について講義した後、演習では、事前学習として調べてきた類似事例を含め、経営課題を分析し、経営課題に適した解決手法や、課題解決のための効果的な手法について、グループに分かれ討議する。</p> <p>介護、福祉業態の分類を行い、業態ごとの強み、弱みを把握し、親和性、独自性を活かした創造的な介護福祉事業の経営モデルを説明できる事を目指す。</p>
成績評価の方法	<p>日常点（授業での発言・ディスカッション等の授業への貢献） 60%</p> <p>レポート 40%（初回10%、中間10%、期末20%）</p>
テキスト	特定の書籍をテキストとして使用はしない。必要な資料は、講義時に随時配布します。
参考文献	西田在賢『(新装版)ソーシャルビジネスとしての医療経営学』薬事日報社刊、2019年。



備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	介護福祉事業の経営に関心があり、経営課題の分析や課題解決、介護福祉事業運営の改善方法に関心を持っていることが望ましい。
---------------------	---

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	イントロダクション わが国の高齢化社会における介護保険と障害福祉サービス	履修登録の前に本講義の概要と単位取得及び成績評価について説明する。 厚生労働省ホームページで、「介護保険制度の概要」「障害福祉サービスの概要」を各自調べて理解しておくこと。
	第2回	介護福祉事業経営の経済規模と人材の採用の課題	わが国の介護福祉事業の特徴について説明する。 また、介護福祉事業経営における人材採用の課題について検討する。
	第3回	人員配置基準と経営課題	介護事業、障害福祉事業における事業形態ごとの人員配置基準を調べておくこと。 各自で調べた人員配置基準の資料をレポートとして提出。評点を初回の考查相当の扱いとする。
	第4回	(演習) 介護福祉事業の経営課題分析	介護福祉事業の経営分析の実際を説明する。 経営資料を基に介護事業の課題分析を行う演習を行う。
	第5回	人件費管理と労働生産性管理	介護福祉事業における労働生産性の管理手法、介護現場の業務改善手法の実際を説明する。
	第6回	(演習) 介護・福祉は複合サービス事業	ここまで学んだわが国の介護福祉事業の特徴や特性を理解して、介護サービス、障害福祉サービスの範疇や連続性について自分自身の言葉で説明する演習を行う。 各人の演習成果物と学びのまとめを提出してもらい、評点を中間考查相当の扱いとする。
	第7回	介護福祉事業の経営持続性	経営持続性を保つ手法、事例を説明する。
授業計画	第8回	(演習) 介護福祉事業経営のための戦略的発想	介護福祉の経営について、ここまでの講義を踏まえ、どのような介護福祉事業を行い、どのような経営を行うべきか自分自身の言葉で説明する演習を行う。 各人の演習成果物と学びのまとめを提出してもらい、評点を期末考查相当の扱いとする。
授業計画			
シラバス備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省 公表されている介護サービスについて <a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/publish/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/publish/</a></li> <li>・厚生労働省 障害福祉サービスについて <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahakuishi/service/naiyou.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahakuishi/service/naiyou.html</a></li> <li>・厚生労働省 介護分野における生産性向上ポータルサイト <a href="https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html">https://www.mhlw.go.jp/kaigoseisansei/index.html</a></li> </ul>		
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	ヘルスケアマネジメント（医療）（Q6）
担当教員氏名	一戸 和成
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	社会保障財政 国民医療費 国民皆保険制度 診療報酬制度 医療保険制度改革
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力（○） 思考力（○） 事業創造力（○） 実践力（△）</p> <p>【到達目標】</p> <p>超高齢化、超少子化社会を迎えた日本における、近年の医療政策、医療保険制度の改革の概要を知るとともに、こうした政策が医療機関等経営とどのように関係しているかを理解する。</p> <p>■知識・・・近年の医療政策、医療保険政策、診療報酬政策を理解する</p> <p>■分析力・・・各種、政策の概要から、医療機関・介護施設の経営に資する内容を判断する</p> <p>■思考力・・・政策内容と医療機関経営の将来の方向性をどのように捉えるかを判断する</p> <p>■事業創造力・・・政策に併せつつ、今後の人口減少・超高齢化社会を見据えた医療機関等の経営企画の楽しさを実感する</p> <p>■実践力・・・医療機関等の経営に当たり、どのような課題があり、それをどのように乗り越えるかの実践を考える</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】</p> <p>カリキュラム上の専門科目の選択科目である</p>
授業の内容	<p>超高齢化、超少子化社会を迎え、医療に関する国民の期待は大きいものの、現実の医療制度、医療提供体制は、その期待に応えられるものとなっていない。また、近年の医療政策、医療保険制度の改革が毎年のように行われているものの、時代の変化に制度変更が追いついていない。こうした中、医療機関、特に病院の経営環境は悪化の一途をたどっており、公立病院、公的病院においては、多額の赤字を計上するなど、その存続すらままならない状況となっている。</p> <p>本講義においては、現在の医療政策、医療保険制度、診療報酬制度・改定を概説するとともに、これまで教員が経験した、公立病院・民間企業における介護施設（有料老人ホーム）・民間病院における経営改善の実践を踏まえて、公立病院特有の課題や制度、実際の経営改善の取組みについて説明する。講義とともに、さまざまな議論を通して医療機関の経営改善にも寄与しつつ、国民・患者のニーズにあった医療機関のあり方・経営方針について理解を深めることを目指す。</p>
成績評価の方法	<p>授業中の議論への参加・授業への貢献：60%</p> <p>期末考査（レポートの提出） 40%</p>
テキスト	<p>特になし、講義の際に資料を提供する</p> <p>医療政策等、厚生労働行政全般を広く浅く理解したければ、『国民衛生の動向』厚生労働統計協会や、厚生労働白書などを見ておくと、講義内容の理解が早いと思われる。</p> <p>また、講義のなかで、診療報酬の個別の点数について解説は加えないが、診療報酬に興味があれば、『医科点数表の解釈』社会保険研究所や『診療点数早見表』医学通信社などを見て、診療報酬の体系を事前に見ておいてもいい。</p>

参考文献	<p>島崎謙治著『日本の国民皆保険』ちくま新書、2025年</p> <p>今村知明他著『改訂2版“中堅どころ”が知っておきたい医療現場のお金の話』メディカ出版、2022年</p> <p>Avedis Donabedian (著), 東尚弘 (翻訳)『医療の質の定義と評価方法』特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構、2007年</p> <p>菅原琢磨他著『医療機器産業論』日本評論社、2022年</p> <p>中山健夫他著『実践 シェアード・ディシジョンメイキング 改題改訂第2版』日本医事新報社、2024年</p> <p>島崎謙治著『医療政策を問いなおす』筑摩書房、2015年</p> <p>尾形裕也著『この国の医療のかたち 医療政策の動向と課題』日本看護協会出版会、2022年</p> <p>尾形裕也著『志なき医療者は去れ』日本看護協会出版会、2023年</p> <p>古城資久著『病院経営者の心得とM&amp;Aの実際』産労総合研究所、2023年</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	医療機関（介護施設も含む）の経営に関心があ、取り巻く医療政策、医療保険制度に興味を持っていることが望ましい。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	社会保障制度を取り巻く現状	厚生労働省、財務省関係の審議会の資料等の確認と、参考文献から興味のあるものを見る程度
	第2回	医療政策・医療保険政策概論①（医療政策）	厚生労働省、財務省関係の審議会の資料等の確認と、参考文献から興味のあるものを見る程度
	第3回	医療政策・医療保険政策概論②（医療保険政策）	厚生労働省、財務省関係の審議会の資料等の確認と、参考文献から興味のあるものを見る程度
	第4回	診療報酬制度概論	国民衛生の動向や医科点数表の解釈等の確認と、参考文献から興味のあるものを見る程度
	第5回	診療報酬改定の実際①（令和6年改定から見えるもの）	中央社会保険医療協議会の資料の確認等
	第6回	公立病院特有の制度と抱える課題と公立病院の経営改革	総務省準公営企業室の資料等の確認と、参考文献から興味のあるものを見る程度
	第7回	民間企業における介護施設経営と現在の民間医療法人における経営改革	介護給付費分科会等の審議会資料等の確認と、参考文献から興味のあるものを見る程度
	第8回	診療報酬改定の実際②（今後の医療機関経営に関する方向性）	参考文献で興味のあるものを見る程度
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	医療介護のイノベーション（Q6）
担当教員氏名	遠藤 邦夫
研究室の場所	
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィシアワー	オンライン面談含め可能な限り随時対応致します。事前にe-mailにてアポイントを取るための連絡を下さい。
E-mail/HP	kendo@bmail.plala.or.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	地域医療構想、地域医療、プライマリーケア、医療介護のデジタル化、在宅医療、薬局経営
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識(◎) 分析力(○) 思考力(◎) 事業想像力(○) 実践力(○)</p> <p>【到達目標】 医療介護制度及び環境の変化を分析し、医療施設経営などの今後のあるべき姿を展望できるようにする。</p> <p>■知識…わが国の医療提供体制と医療制度改革の状況を把握する。また、医療機関経営の課題についても理解する。 ■分析力…わが国の医療介護制度の課題を把握し、分析を行う。 ■思考力…今後、医療施設などにおいてどのようなことが経営持続に大きな影響を及ぼすことになるのかを理解する ■事業創造力…現在、注目される医療機関の運営について取り上げ、その経営の留意点などを解説する。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 専門科目に位置づけられる。</p>
授業の内容	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大によってわが国の医療制度の大きな課題が浮き上がるようになった。それまでは国民皆保険制度を維持するために医療従事者に多大な負担を強いてきたが、そのことがコロナ禍の医療提供体制を混乱させることになったからだ。病院の役割分担や集約化ができない状況など、制度の課題が新型コロナウイルス感染症の急速な拡大によって浮き上がるようになった。</p> <p>また、コロナ禍以前から課題となっていた公立病院や公的病院の統廃合についても思うように進展していない。政府としては、待ったなしの人口減少・高齢社会においてその対応策を急がなければ、わが国の医療提供体制がこれまで以上に歪みを生じさせることとなり、超高齢社会を乗り切ることが困難になってしまいかねない。</p> <p>このような状況下で、わが国では地域医療構想、医師の働き方改革、医師の地域偏在化の是正が同時並行で推進されている。だが、いずれの課題も容易に解決先を見出すことができない。このままでは、暫定的な対応を繰り返すことになる。</p> <p>一方、わが国において政府の後押しを背景にして医薬分業が急速に進展してきた。最近では、大学病院や公立・公的病院など地域の基幹病院の敷地内薬局が急増し、ドラッグストアなども調剤事業を拡大し、競争環境もけんかしている。</p> <p>しかし、医療関係者だけではなく国民の中からも現在の医薬分業のあり方について疑問が投げかけられ、調剤報酬改定などで急成長を続けてきた調剤薬局は、これまでのあり方の見直しを迫られることになった。それにもかかわらず薬局数の増加傾向は続いている。早急にそのあり方の見直しを行わなければ、薬局や薬局薬剤師に対する国民の厳しい眼を改善することができない。加えて薬局経営もこれまでとは異なり、右肩上がりではなくなってきた。そのため患者や地域住民本位の経営を行うことができなければ、経営を持続することが困難になる。</p> <p>さらに、わが国でも医療介護分野においてデジタル化の波が急速に押し寄せている。待ったなしの人口減少社会が到来する状況下においては、デジタルをいかに有効に活用し、医療や介護の質を向上させ、経営の安定化にもつなげることができるかが大きな課題解決につながることになる。デジタル化やAIの進展は、医療介護分野へ異業種企業の参入を可能にすることでもある。すでに米国ではグーグルやアップル、アマゾンなどさまざまな巨大デジタル企業が医療関連市場に参入し、制度の壁を乗り越え医療介護分野に多大な影響を及ぼすことが予想されている。わが国でも同様の動きが加速されることが予想される。</p> <p>以上のことから授業では今後、すでに示された政策や新たな動きがどのような方向に向かい、医療・介護施設、薬局がどのように変化することになる、あるいは医療・介護施設に代わる新たな施設が生まれている事例を提示し、考察する。その際、場合によっては関連する施策や事業に詳しい専門家をゲスト講師として招き、今後の展望について講師とともに検討することで自身の学びを深くしてもらうことも行う。</p>
成績評価の方法	講義を聴いてディスカッションに加わり、分析力や創造力に富んだ発言を積極的に行うことの日常点70%、講義終了後に課す課題レポート30%のバランスで評点を行う。
テキスト	島崎謙治著『日本の医療』東京大学出版会、2020年 遠藤邦夫著『薬局と薬剤師の進化論』評言社、2021年 井伊雅子著『地域医療の経済学』慶應義塾大学出版会、2024年 このほかに受講に必要な資料等は講義の事前あるいは授業時に配布する。

参考文献	<p>P・ドラッカー著『非営利組織の経営』ダイヤモンド社、1991年</p> <p>龍輝龍樹著『医療大転換』筑摩書房、2013年</p> <p>クレイトン・M・クリステンセン著『医療イノベーションの本質』中央経済社、2015年</p> <p>島崎謙治著『医療政策を問い直す』筑摩書房、2015年</p> <p>エリック・トボル著『DEEP MEDICINE』NTT出版、2020年</p> <p>名和高司著『パーバス経営』東洋経済新報社、2021年</p> <p>矢野和夫著『予測不能の時代』草思社、2021年</p> <p>エイミー・エドモンドソン著『恐れない組織』英治出版、2021年</p> <p>河本薫著『データドリブン思考』ダイヤモンド社、2022年</p> <p>二木立著『2020年代初頭の医療・社会保障』勁草書房、2022年</p> <p>尾形裕也著『この国の医療のかたち 医療政策の動向と課題』日本看護協会出版会、2022年</p> <p>尾形裕也著『志なき医療者は去れ』日本看護協会出版会、2023年</p> <p>清水洋著『イノベーションの考え方』日経BP 日本経済新聞出版、2023年</p> <p>資質資久著『病院経営者の心得とM&amp;Aの実際』産労総合研究所、2023年</p> <p>河本薫著『データドリブン・カンパニーへの道』講談社、2024年</p> <p>二木立著『病院の将来とかかりつけ医機能』勁草書房、2024年</p> <p>佐々木周作、大竹文雄、齋藤智也著『行動経済学で道のワクチンに向き合う』日本評論社、2025年</p> <p>島崎謙治著『日本の国民皆保険』筑摩書房、2025年</p> <p>以上の参考書籍については、できるだけ多くの書籍を読むことを勧める。</p> <p>医療及び介護施設の経営や市場分析に関心があり、今後の社会環境変化を体系化することに関心を持っていることが望ましい。</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>ディスカッションを積極的に取り入れ、学生に授業内容に興味を持ってもらえるよう工夫をしていきたい。また、最新の話題や重要な項目について配付資料を吟味し、学生の学びを深めることを目指す。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】シラパスの内容を精査し、ディスカッションを積極的に取り入れ、学生に授業内容に興味を持ってもらえるように工夫していきたい。また、最新の話題や重要な項目について配付資料も吟味し、学生の学びを深めることを目指す。</p>

授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業計画</th><th>準備学習</th></tr><tr><td>第1回</td><td>医療介護のイノベーションの講義の方向性</td><td>履修登録の前に本講義の概要と単位取得及び成績評価について説明する。その後、社会保障審議会の「2040年頃に向けた医療提供体制の総合的な改革に関する意見」を事前に配布し、それを読んだ感想を発表してもらう。各人の発表後、関連する課題について討議する。</td></tr><tr><td>第2回</td><td>医療介護のイノベーションの講義の方向性（続き）</td><td>受講生が講義においてどのようなことを学び得たいのかを質疑応答。また、医療介護のイノベーションの可能性と期待について理解を深めてもらう。</td></tr><tr><td>第3回</td><td>近年の医療・介護施設を取り巻く市場環境変化（1） わが国の医療介護の歴史的な流れを分析</td><td>戦後から平成までの医療制度改革について考察する。テキスト『日本の医療』の第7章、第8章、第9章を事前に読んでおくこと。</td></tr><tr><td>第4回</td><td>近年の医療・介護施設を取り巻く市場環境変化（2） わが国の医療介護制度改革を分析</td><td>これまでの医療制度改革の動向を踏まえ、次世代の方向性について考察する。</td></tr><tr><td>第5回</td><td>わが国の医療提供体制の課題（1）</td><td>OECDレポート-日本を事前に配布する。さらにテキスト『地域医療の経済学』の第3章を読んでわが国医療の課題について各人にパワーポイントによる報告を求める。</td></tr><tr><td>第6回</td><td>わが国の医療提供体制の課題（2）</td><td>OECDレポートやテキスト『地域医療の経済学』にあがった課題について、その解決のために今何を行うべきかを討議する。</td></tr><tr><td>第7回</td><td>プライマリーケア制度強化の課題と可能性（1）</td><td>厚労省が推進しているかかりつけ医機能報告制度について、資料を配付する。また、テキスト『地域医療の経済学』第5章を読んで今後のわが国医療の質向上について欠かせないことについて各人がパワーポイントで説明を行う。</td></tr><tr><td>第8回</td><td>プライマリーケア制度強化の課題と可能性（2）</td><td>かかりつけ医機能はわが国にどのようにすれば定着しうるかを討議する。</td></tr><tr><td>第9回</td><td>わが国の医療機関経営（1）</td><td>わが国の病院経営の課題について、さまざまな視点から考察を行う。わが国の医療機関経営のあり方について各自が自らの意見をまとめて発表を行う。</td></tr><tr><td>第10回</td><td>わが国の医療機関経営（2）</td><td>医療施設の課題を抽出し、その組織を改善するための方法を検討し、討議する。</td></tr><tr><td>第11回</td><td>わが国の薬局経営（1）</td><td>わが国の薬局経営の歴史を振り返りつつ、今後のあるべき姿を検討する。テキスト『薬局と薬剤師の進化論』を読んでおくこと。</td></tr><tr><td>第12回</td><td>わが国の薬局経営（2）</td><td>各人が抱えている医薬分業のあり方や薬局の存在について発表してもらい、全員でその課題と解決のための方策について討議する。</td></tr><tr><td>第13回</td><td>地域医療構想下における病院経営 ゲストを交えた質疑応答</td><td>ゲスト講師の話聞いた上で、内容についての質疑応答を行う。</td></tr><tr><td>第14回</td><td>地域医療構想下における病院経営 ゲストを交えた質疑応答</td><td>ゲスト講師を交えて医療制度のあり方や病院経営について全員で討議を行う。</td></tr><tr><td>第15回</td><td>これまでの講義内容の質疑応答</td><td>これまで学んだわが国の医療介護分野の変革の動向について、受講者自身が考えを整理する時間を設け、課題を与えて学びの深度を考察する。</td></tr><tr><td>第16回</td><td>これまでの講義において重要な部分の補足説明等を行う</td><td>課題レポートの作成における不明点や、授業内容の疑問点についてまとめ、授業において発言できるようにしておくこと。</td></tr></table>	回数	授業計画	準備学習	第1回	医療介護のイノベーションの講義の方向性	履修登録の前に本講義の概要と単位取得及び成績評価について説明する。その後、社会保障審議会の「2040年頃に向けた医療提供体制の総合的な改革に関する意見」を事前に配布し、それを読んだ感想を発表してもらう。各人の発表後、関連する課題について討議する。	第2回	医療介護のイノベーションの講義の方向性（続き）	受講生が講義においてどのようなことを学び得たいのかを質疑応答。また、医療介護のイノベーションの可能性と期待について理解を深めてもらう。	第3回	近年の医療・介護施設を取り巻く市場環境変化（1） わが国の医療介護の歴史的な流れを分析	戦後から平成までの医療制度改革について考察する。テキスト『日本の医療』の第7章、第8章、第9章を事前に読んでおくこと。	第4回	近年の医療・介護施設を取り巻く市場環境変化（2） わが国の医療介護制度改革を分析	これまでの医療制度改革の動向を踏まえ、次世代の方向性について考察する。	第5回	わが国の医療提供体制の課題（1）	OECDレポート-日本を事前に配布する。さらにテキスト『地域医療の経済学』の第3章を読んでわが国医療の課題について各人にパワーポイントによる報告を求める。	第6回	わが国の医療提供体制の課題（2）	OECDレポートやテキスト『地域医療の経済学』にあがった課題について、その解決のために今何を行うべきかを討議する。	第7回	プライマリーケア制度強化の課題と可能性（1）	厚労省が推進しているかかりつけ医機能報告制度について、資料を配付する。また、テキスト『地域医療の経済学』第5章を読んで今後のわが国医療の質向上について欠かせないことについて各人がパワーポイントで説明を行う。	第8回	プライマリーケア制度強化の課題と可能性（2）	かかりつけ医機能はわが国にどのようにすれば定着しうるかを討議する。	第9回	わが国の医療機関経営（1）	わが国の病院経営の課題について、さまざまな視点から考察を行う。わが国の医療機関経営のあり方について各自が自らの意見をまとめて発表を行う。	第10回	わが国の医療機関経営（2）	医療施設の課題を抽出し、その組織を改善するための方法を検討し、討議する。	第11回	わが国の薬局経営（1）	わが国の薬局経営の歴史を振り返りつつ、今後のあるべき姿を検討する。テキスト『薬局と薬剤師の進化論』を読んでおくこと。	第12回	わが国の薬局経営（2）	各人が抱えている医薬分業のあり方や薬局の存在について発表してもらい、全員でその課題と解決のための方策について討議する。	第13回	地域医療構想下における病院経営 ゲストを交えた質疑応答	ゲスト講師の話聞いた上で、内容についての質疑応答を行う。	第14回	地域医療構想下における病院経営 ゲストを交えた質疑応答	ゲスト講師を交えて医療制度のあり方や病院経営について全員で討議を行う。	第15回	これまでの講義内容の質疑応答	これまで学んだわが国の医療介護分野の変革の動向について、受講者自身が考えを整理する時間を設け、課題を与えて学びの深度を考察する。	第16回	これまでの講義において重要な部分の補足説明等を行う	課題レポートの作成における不明点や、授業内容の疑問点についてまとめ、授業において発言できるようにしておくこと。	
回数	授業計画	準備学習																																																			
第1回	医療介護のイノベーションの講義の方向性	履修登録の前に本講義の概要と単位取得及び成績評価について説明する。その後、社会保障審議会の「2040年頃に向けた医療提供体制の総合的な改革に関する意見」を事前に配布し、それを読んだ感想を発表してもらう。各人の発表後、関連する課題について討議する。																																																			
第2回	医療介護のイノベーションの講義の方向性（続き）	受講生が講義においてどのようなことを学び得たいのかを質疑応答。また、医療介護のイノベーションの可能性と期待について理解を深めてもらう。																																																			
第3回	近年の医療・介護施設を取り巻く市場環境変化（1） わが国の医療介護の歴史的な流れを分析	戦後から平成までの医療制度改革について考察する。テキスト『日本の医療』の第7章、第8章、第9章を事前に読んでおくこと。																																																			
第4回	近年の医療・介護施設を取り巻く市場環境変化（2） わが国の医療介護制度改革を分析	これまでの医療制度改革の動向を踏まえ、次世代の方向性について考察する。																																																			
第5回	わが国の医療提供体制の課題（1）	OECDレポート-日本を事前に配布する。さらにテキスト『地域医療の経済学』の第3章を読んでわが国医療の課題について各人にパワーポイントによる報告を求める。																																																			
第6回	わが国の医療提供体制の課題（2）	OECDレポートやテキスト『地域医療の経済学』にあがった課題について、その解決のために今何を行うべきかを討議する。																																																			
第7回	プライマリーケア制度強化の課題と可能性（1）	厚労省が推進しているかかりつけ医機能報告制度について、資料を配付する。また、テキスト『地域医療の経済学』第5章を読んで今後のわが国医療の質向上について欠かせないことについて各人がパワーポイントで説明を行う。																																																			
第8回	プライマリーケア制度強化の課題と可能性（2）	かかりつけ医機能はわが国にどのようにすれば定着しうるかを討議する。																																																			
第9回	わが国の医療機関経営（1）	わが国の病院経営の課題について、さまざまな視点から考察を行う。わが国の医療機関経営のあり方について各自が自らの意見をまとめて発表を行う。																																																			
第10回	わが国の医療機関経営（2）	医療施設の課題を抽出し、その組織を改善するための方法を検討し、討議する。																																																			
第11回	わが国の薬局経営（1）	わが国の薬局経営の歴史を振り返りつつ、今後のあるべき姿を検討する。テキスト『薬局と薬剤師の進化論』を読んでおくこと。																																																			
第12回	わが国の薬局経営（2）	各人が抱えている医薬分業のあり方や薬局の存在について発表してもらい、全員でその課題と解決のための方策について討議する。																																																			
第13回	地域医療構想下における病院経営 ゲストを交えた質疑応答	ゲスト講師の話聞いた上で、内容についての質疑応答を行う。																																																			
第14回	地域医療構想下における病院経営 ゲストを交えた質疑応答	ゲスト講師を交えて医療制度のあり方や病院経営について全員で討議を行う。																																																			
第15回	これまでの講義内容の質疑応答	これまで学んだわが国の医療介護分野の変革の動向について、受講者自身が考えを整理する時間を設け、課題を与えて学びの深度を考察する。																																																			
第16回	これまでの講義において重要な部分の補足説明等を行う	課題レポートの作成における不明点や、授業内容の疑問点についてまとめ、授業において発言できるようにしておくこと。																																																			
授業計画																																																					
シラパス備考																																																					
URLリンク																																																					
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルアップロードしてください																																																					

授業科目名	医療流通のイノベーション（Q6）
担当教員氏名	遠藤 邦夫
研究室の場所	
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィシアワー	オンライン面談含め可能な限り随時対応致します。事前にe-mailにてアポイントを取るための連絡を下さい。
E-mail/HP	kendo@bmail.plala.or.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	製薬業界、医薬品サプライチェーン、薬価制度、流通改善ガイドライン、新規事業、デジタル革命、組織改革
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識(◎) 分析力(○) 思考力(◎) 事業想像力(○) 実践力(◎)</p> <p>【到達目標】 混乱の度を深める製薬市場において、製薬企業はAIによる新薬開発だけではなく、デジタル治療アプリの開発など旧来の企業の枠組みを超えて経営基盤強化に取り組んでいる。また、医薬品卸は医薬品の流通事業だけではなく、さまざまな医療関連事業に投資するなどし、独自の経営持続のための道を見出そうとしている。このような状況下において新型コロナウイルス感染症が拡大し、わが国の医療サプライチェーンに大きな課題を投げかけることになった。これらの市場環境変化や製薬企業、医薬品卸等の対応を理解し、今後、業界がどのような変貌を遂げていくかを考察する。本授業を通じて受講者は医療サプライチェーンの要ともいえる医薬品卸の存在意義や課題、今後の可能性について学びを深めることができるようになる。さらには、本授業を受講することでわが国医療の課題や今後の可能性について理解することができる。</p> <p>■知識…わが国の製薬企業の歴史的な背景を理解し、現在、わが国の医療流通市場で生み出されているイノベーションの状況や制度改革、業界再編の動向について学びを深める。</p> <p>■分析力…薬価及び医療流通制度改革の動向を検証し、今後の業界や事業の変化に影響を及ぼすキーワードを抽出し、課題を見出す。</p> <p>■思考力…医療サプライチェーンの現状と今後の変化を踏まえ、関係する企業に求められる経営のあり方を見出す。</p> <p>■事業創造力…製薬業界では、AIやアプリなどデジタルの積極的な活用によって医薬品開発のスピードを早め、成功確率を高める動きが世界的に拡大している。そのような状況下で製薬企業や医薬品卸などは、どのような経営戦略を展開することが必要とされるかなどを予想する。</p> <p>■実践力…わが国の医療サプライチェーンにおいて現在どのようなことが生じており、そのことを解決するにはどのようなことを事業戦略として行う必要があるのかを探る。</p> <p>【カリキュラム上の位置付け】 専門科目に位置づけられる。</p>
授業の内容	<p>長年に渡り成長を持続してきた日本の製薬企業はグローバルな市場競争環境下において厳しい経営を強いられている。新型コロナウイルス感染症ワクチンや治療薬の開発では大きく出遅れてしまい海外の大手製薬企業との開発力の差を見せつけられた。さらに中国の製薬企業の開発力も侮れなくなってきており、日本の製薬企業もこれまで以上に厳しい戦いを強いられている。</p> <p>低分子医薬品において一定の成果を挙げてきた国内大手・中堅製薬企業各社は、低分子医薬品開発から抗体医薬、分子標的医薬品、遺伝子治療薬の開発へとモダリティ（治療手段）を重視した開発へと大きく舵を切ることになった。そのため研究開発のあり方を独自開発からオープンイノベーションへと大きく変更した。それに対して海外の大手製薬企業各社は先んじて時代変化に対応した研究開発体制を整え新薬を次々と市場に投入し、日本市場においてもその存在感を高めている。そのような外資系企業の中には自社の都合に適合した流通に変えようとするところが出てきた。このような動きは、現時点ではどこまで拡大するかは不明であるが、今後の医療サプライチェーンのあり方に影響を及ぼすことになる。さらに新型コロナウイルス感染症の世界的規模での拡大により、これまでの世界的規模での医療サプライチェーンのあり方も経済安全保障の観点から早期に見直しを行う必要が急務となっている。</p> <p>一方、20世紀の製薬企業・医薬品卸業界のビジネスモデルは、医療提供体制や医薬品使用のあり方、薬価制度などが大きく変化している状況下で、見直しを迫られている。そのため21世紀の業界の事業のあり方は、その時代にふさわしいプレーヤーによって新たな市場が形成されることになる。医療サプライチェーンにおける主要プレーヤーとして医薬品卸が挙げられるものの、このままではデジタル治療の展開やスペシャリティ医薬品の急増などにより、新規に参入する企業が旧来の医薬品卸に代わってその存在感を高めることも予想される。それだけではなく新たな勢力が台頭し、医療流通市場の勢力図を大きく塗り替えてしまいかねない。</p> <p>また、わが国においても多くのデジタル関連企業がヘルスケア事業にさまざまな形で乗り出してきている。それだけ異業種企業はヘルスケアに関する事業を有望視している。だが、それらの企業の多くは医薬品卸との関係が希薄である。しかしながら医薬品卸が持ち合わせていない異業種企業のデジタル技術は、医薬品卸各社が将来の経営体質強化のために構築しようとしているヘルスケアプラットフォーム構築において不可欠な存在となっている。そのため大手医薬品卸はさまざまなデジタル企業に対して提携や資金提供などを行い事業化に向けて動き出している。</p> <p>本授業では、わが国の製薬及び医療機器企業の変革状況、さらにはそのような状況下で医薬品卸が事業を持続するためにどのような経営を展開しているかについて実状を踏まえて講義する。加えてそのことを補完するために関連する企業経営者もしくは幹部を招いて討議し、その過程で自身の学びを深くしてもらいたい。</p>
成績評価の方法	講義を聴いてディスカッションに加わり、分析力や創造力に富んだ発言を積極的に行うことの日常点70%、講義終了後に課す課題レポート30%のバランスで評点を行う。

テキスト	じほう編集『薬事ハンドブック2025 薬事行政・業界の最新動向と展望』じほう、2025年 薬価政策研究会編『皆保険と医薬品流通の未来に向けて』社会保険研究所、2020年 以上2冊については事前に読んでおくことが望ましい。 このほか受講に必要な資料等は講義の事前あるいは授業時に配布する。
参考文献	利部修二著『医薬品流通と公正取引法』じほう、1992年 ゲイリー・ハメル、C・K・ブラハード著『コア・コンピタンス経営』日本経済新聞出版社、2001年 河本薫著『会社を変える分析の力』講談社現代新書、2013年 星野達也著『オープン・イノベーションの教科書』ダイヤモンド社、2015年 クレイトン・M・クリステンセン著『医療イノベーションの本質』中央経済社、2015年 島崎謙治著『医療政策を問い直す』筑摩書房、2015年 ジリアン・デット著『サイロ・エフェクト』文藝春秋、2019年 田所雅之著『御社の新規事業はなぜ失敗するのか』光文社、2020年 エリック・トボル著『DEEP MEDICINE』NTT出版、2020年 名和高司著『バーバス経営』東洋経済新報社、2021年 矢野和夫著『予測不能の時代』草思社、2021年 野中郁次郎編著『共感が未来をつくる』千倉書房、2021年 エイミー・エドモンドソン著『恐れない組織』英治出版、2021年 河本薫著『データドリブン思考』ダイヤモンド社、2022年 二木立著『2020年代初頭の医療・社会保障』勁草書房、2022年 尾形裕也著『この国の医療のかたち 医療政策の動向と課題』日本看護協会出版会、2022年 尾形裕也著『志なき医療者は去れ』日本看護協会出版会、2023年 清水洋著『イノベーションの考え方』日経BP 日本経済新聞出版、2023年 資質資久著『病院経営者の心得とM&Aの実際』産労総合研究所、2023年 河本薫著『データドリブン・カンパニーへの道』講談社、2024年 二木立著『病院の将来とかかりつけ医機能』勁草書房、2024年 森隆行著『CLO』同分館出版、2024年 ジム・バンハイ、マイク・アレン、ロイ・シュウォーツ共著『Simple 簡潔さは最強の戦略である』ダイヤモンド社、2024年 島崎謙治著『日本の国民皆保険』筑摩書房、2025年 以上の参考書籍については、できるだけ多くの書籍を読むことを勧める。 医療及び介護施設の経営や市場分析に関心があり、今後の社会環境変化を体系化することに関心を持っていることが望ましい。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	ディスカッションを積極的に取り入れ、学生に授業内容に興味を持ってもらえるよう工夫をしていきたい。また、最新の話題や重要な項目について配付資料を吟味し、学生の学びを深めることを目指す。

授業計画		
	回数	授業計画
	第1回	医療流通のイノベーションの講義の方向性
	第2回	医療提供体制の現状についての分析
	第3回	製薬市場分析 (1) わが国の製薬市場の全体像を把握する
	第4回	製薬市場分析 (2) わが国の製薬市場の特徴について
	第5回	製薬市場分析 (3) 薬価問題を中心に議論する
	第6回	製薬市場分析 (4) 製薬市場の研究開発の変遷と経営課題
	第7回	医療流通市場分析 (1)
	第8回	医療流通市場分析 (2) イノベーションと公的医療保険制度の維持について考察する
	第9回	医療流通市場と医薬品卸の課題 (1) 医薬品卸の経営戦略事例研究
	第10回	医療流通市場分析 (2) 大手医薬品卸の経営戦略について
	第11回	医療流通市場と医薬品卸の課題 (3) ゲスト講師の講演
	第12回	医療流通市場と医薬品卸の課題 (4) ゲスト講師との質疑応答
	第13回	医療流通市場と医薬品卸の課題 (5) 経営戦略における課題
	第14回	医療流通市場と医薬品卸の課題 (6) 未来のあるべき姿
	第15回	これまでの講義内容の質疑応答
	第16回	これまでの講義において重要な部分の補足説明等を行う
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク		
科目ループリンクがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください		

授業科目名	社会イノベーション（Q5）
担当教員氏名	露木 真也子
研究室の場所	1471研究室
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	火曜日 17:00-18:30 その他オンライン面談を含め可能な限り随時対応
E-mail/HP	学生便覧参照
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	社会イノベーション 社会起業家 普及 コレクティブ・インパクト
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（） 思考力（◎） 事業創造力（△） 実践力（）</p> <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■知識 社会イノベーションの普及の重要性と社会起業家の役割について説明できる</li> <li>■思考力 社会的課題を構造的にとらえ、問題の本質と根本原因、目の前で起きている事象とのつながりについて、自ら判断できる</li> <li>■事業創造力 自らの関心領域における社会的課題をめざし、先進事例を参考にしながら、実現可能な事業モデルを自ら発想することができる</li> </ul> <p>【カリキュラム上の位置付け】</p> <p>コモンズマネジメントのなかで、共感に根ざした多様な主体の連携を軸として社会的課題の解決と新たな社会システム・価値観の創出をめざす、新たなビジネス創造に関連する専門科目であり、「共生社会の理念と実例」の関連科目である。</p>
授業の内容	<p>社会を変える社会イノベーションの取り組みやその担い手である社会起業家は、決して特殊な成功事例や歴史的英雄のような人物のことではない。身近な出来事から社会的課題に気づき、ユニークな視点から解決の糸口となるアイデアを発想し、持続可能な事業モデルを構築する。生み出された新たな事業モデルはどのように広まっていくのか。「アショカ」を始めとした代表的な支援機関による社会起業家の概念定義、国内外の社会イノベーション・社会起業家研究の系譜、イノベーション普及論の観点からの事例研究等について講義するとともに、第一線で活躍する社会起業家をゲスト講師に招く機会を設け、社会イノベーションおよび社会起業(家)について理論と実践の両面から理解を深める。</p>
成績評価の方法	<p>日常点（授業・ディスカッション参加の際の主体的な態度）：30%</p> <p>レポート（講義内容を踏まえた小レポート課題）：30%</p> <p>最終課題：40%</p>
テキスト	適当なテキストがないため、独自教材および参考文献を随時配付・紹介する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堂目卓生・山崎吾郎編[2022]『やっかいな問題はみんなで解く』世界思想社。</li> <li>・SSIR Japan[2021]『これからの「社会の变え方」を、探しに行こう。ースタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビューベストセクション10』英治出版。</li> <li>・野中郁次郎・山口一郎[2019]『直観の経営ー「共感の哲学」で読み解く動態経営論』KADOKAWA。</li> <li>・ビバリー・シュワルツ 藤崎香里訳[2013]『静かなるイノベーションー私が世界の社会起業家たちに学んだこと』英治出版。</li> </ul> <p>上記のほか、随時参考文献を配付または紹介する。</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>本講義は座学中心であるが、知識と実践の両面から社会イノベーションへの理解を深める趣旨であるため、自身の経験や興味関心をもとに、主体的に事前学習・復習・授業参加できることが望ましい。</p> <p>※ゲスト講師調整の都合により、授業計画に記載した講義内容の順番とゲスト講義日程は変更となる可能性がある。</p> <p>【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】現役社会起業家による特別講義を複数回設けたことやレポート課題へのコメントフィードバックが好評であった。次年度も受講者の多様なバックグラウンドを考慮した事例紹介やゲスト講師の</p>



選定に努め、各回レポート課題へのコメント返却も継続実施していく。講義中心ではあるが、各自の問題意識や実務等に照らした個々の深い理解が重要であることから、グループ課題等、能動的に取り組む学修機会を増やすなど、工夫を重ねていきたい。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	イントロダクション —社会イノベーションとは	仕事や日常生活の中で感じる“課題”とはどのようなことか、意識して考えておく
	第2回	「社会起業家」とその役割	小レポート：「社会起業家とは」 提出期限：次回講義前まで
	第3回	社会イノベーション研究の系譜 —米国・欧州と日本の最新動向	自社内で実践されている仕事を通じた社会的課題への取り組み事例を調べておく
	第4回	企業と社会イノベーション	小レポート：自社内の取り組み事例について、社会起業家の視点から課題と展望を考察する 提出期限：次回講義前まで
	第5回	社会起業がもたらす変化と社会イノベーション	自らの関心領域における身近な取り組み事例では、事業や活動がどのような変化をもたらしているか調べておく
	第6回	社会イノベーションの普及過程 —スケーリング・アウト	小レポート：自らの関心領域における身近な取り組み事例について、その普及志向と普及手法を分析・考察する 提出期限：次回講義前まで
	第7回	社会イノベーションの普及過程 —スケーリング・ディープ	自らの関心領域における身近な取り組み事例の成果について、できるだけ具体的に言語化しておく
	第8回	社会的インパクトとその評価 —変化の理論とロジックモデル	小レポート：自らの関心領域における身近な取り組み事例の成果について、可視化する手法を提案する 提出期限：次回講義前まで
	第9回	社会起業家特別講義 ゲスト講師：未定	ゲスト事例が取り組む社会的課題とその背景について調べておく
	第10回	講師を交えての事例研究ディスカッション	小レポート：ゲスト講義から得たもの、今後の課題である点等、自らの事業アイディアに結びつけて考察する 提出期限：次回講義前まで
	第11回	社会起業（Social Entrepreneurship）の実践 —変化の理論とコレクティブ・インパクト	自ら解決のため取り組みたい社会的課題とその先行事例（社会起業家でも可）について調べておく
	第12回	社会起業（Social Entrepreneurship）の実践 —ロジックモデル策定演習	最終課題：自らの関心領域における社会的課題を解決する事業アイディアを構想し、国内外の先進事例を1例挙げて、変化の理論の観点から比較考察する
	第13回	最終課題の口頭発表とディスカッション	最終課題の内容を口頭発表のうえ、全員で相互に評価とフィードバックを行う
	第14回	社会イノベーションがめざすもの —社会的排除と社会的包摂について考える	「社会イノベーション」の講義を振り返り、自らが考える、身近な社会的課題を解決した先に見据える“未来のありたい姿”を具体的にイメージしておく
	第15回	社会起業家特別講義 ゲスト講師：未定	ゲスト事例が取り組む社会的課題とその背景について調べておく
	第16回	講師を交えての事例研究ディスカッション	小レポート：ゲスト講義から得たもの、今後の課題である点等、自らの事業アイディアに結びつけて考察する 提出期限：次回講義前まで
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	アジアの環境ビジネス創造（Q6）
担当教員氏名	礪貝 日月
研究室の場所	1472研究室
連絡先電話番号	
オフィシアワー	オンライン面談を含め可能な限り随時対応しますので、事前にe-mailもしくはTeamsにてご連絡ください
E-mail/HP	学生便覧参照
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義・ワークショップ
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	人類学的思考、フィールドワーク、環境と文化、サステナビリティ、適応戦略、相対化、Living for Today
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	知識（○）分析力（△）思考力（◎）事業創造力（○）実践力（△）  【到達目標】 ■知識 アジアの環境問題と社会課題について、興隆しているビジネスの観点から説明できる。 ■分析力 アジア各国のデータを相対的に比較、分析し、もてめられている普及可能な環境ビジネスについて再検証することができる。 ■思考力 固定観念にとらわれず柔軟な発想で判断できる。 ■事業創造力 グローバルに貢献し得る環境技術、それに付随する人材育成、経営戦略について、具体的な事例を使って現状分析を行うスキルを身につけ、企画・立案することができる。 ■実践力 ターゲットとセグメントを明らかにして、環境ビジネスの現場の課題や可能性について議論をファシリテートすることができる。  【カリキュラム上の位置づけ】 カリキュラム上は「地域資源マネジメント」に分類されている「専門科目」であり、「地域資源マネジメント」、「特別研究E（サービスマネジメント）」に関連する。
授業の内容	アジア諸国の範囲は広く、国・地域によって成長速度は異なるものの先進国を上回る成長率の高さに注目が集まっている。各国・地域が持続可能な発展を目指し、環境ビジネスの技術とマネジメントによりそれぞれの抱える課題をどのように克服しているのか、さらには世界経済を牽引する潜在性について具体的な事例をもとに実践を学び、各動向を分析する。また、国や地域によって民族、文化、社会、法、慣習、制度、宗教、気候、風土などは異なり、それぞれの差異に目を向けるべく人類学の視座やフィールドワークの方法論について理解を深める。
成績評価の方法	日常点（授業内でのワークショップの発表、ファシリテーションを含む）50％ 最終レポート・プレゼンテーション50％
テキスト	授業内でその都度紹介する。
参考文献	菅原和孝編著『フィールドワークへの挑戦』（世界思想社、2006年） 松村圭一郎著『文化人類学』（人文書院、2011年） 日本文化人類学会監修、錦味治也、関根康正、橋本和也、森山工編著『フィールドワーカーズ・ハンドブック』（世界思想社、2011年） 小川さやか著『「その日暮らし」の人類学—もう一つの資本主義経済—』（光文社、2016年） 川口幸大著『ようこそ文化人類学へ—異文化をフィールドワークする君たちに—』（昭和堂、2017年） 松村圭一郎、中川理、石井美保編著『文化人類学の思考法』（世界思想社、2019年） 松村圭一郎著『はみだしの人類学—ともに生きる方法—』（NHK出版、2020年） 角幡唯介著『狩りの思考法』（アサヒグループホールディングス／清水弘文堂書房、2021年） 礪貝日月著『ヌナプト㊦㊧：イヌイットの国その日、その日 テーマ探しの旅 Amazon Kindle版』（清水弘文堂書房、2025年） 他、授業内で動画や参考文献・資料となる情報を適宜紹介する。また、購入が必要な書籍については初回の授業で説明する。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	・取り扱うアジア各国のケーススタディをもとに、「社会問題の分析」「解決策の立案」「解決策の影響評価」という一連のプロセスを事例ごとに分析する。そのため普段から海外ビジネスにおける日本企業や国際協力団体の存在意義や動向、プロダクト及びサービスの現状について関心を持って調べ、議論に参加することを期待する。 ・お呼びする専門家・実務家のスケジュール調整の結果、取り扱う国やテーマが変更、回が前後する可能性がある。また、アンケートやワークショップの結果などから予定を変更する可能性がある。変更については初回の授業で説明する。 ・授業はデュアル方式を予定しているが、ゲストスピーカーと海外から繋いだり、県外からの移動の都合によってはオンラインのみの実施の可能性がある。各回の実施方式について初回の授業で説明する。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】R6年度は文献を通しての発表やディスカッションの時間を増やすなど例年から少し講座全体の構成を変更したので、どのような評価になるか気になる場所であったが、例年同様、アンケート、自由記述ともに高評価をいただいたので、次年度も継続して評価いただけるように努める。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	【8/2 3,4限】 イントロダクション アジアとは何か	アジアとは何か、気候、歴史、市場、民族、歴史、宗教など多様なファクターから検討しておくこと。キーワードについて考えをまとめておくこと。
	第2回	【8/2 3,4限】 人類学的思考について	人類学のまなざしや人類学の方法論であるフィールドワークについて参考文献を参考に自身の考えをまとめておくこと。
	第3回	【8/10 1,2限】 アジアをみるまなざしについて発表&ディスカッション	指定された参考文献を読み、アジアをみるまなざしに関する人類学的思考の事例について発表の準備をしておくこと。
	第4回	【8/10 1,2限】 アジア各国のケーススタディについて発表&ディスカッション	文献およびWeb上でデータ収集をし、アジア各国のケーススタディについて発表の準備をしておくこと。
	第5回	【8/10 3,4限】 ゲストスピーカー講義	ビジネスで持続可能な社会をアジアで実現するために必要な経営思考とは何か、自分の意見をまとめておくこと。
	第6回	【8/10 3,4限】 事例分析と課題検証	市場のコンテクストの読み違い、歴史・文化要因がもつ課題について調べておくこと。
	第7回	【8/24 3,4限】 プレゼンテーション報告	これまでの講義、発表、ワークショップなどを振り返り、最終課題について発表の準備をしておくこと。
	第8回	【8/24 3,4限】 オープンディスカッション	最終発表を振り返り、問題点を抽出し、最終討議を行い、市場や文化を読み誤らせる要因について議論するため、準備をしておくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	特別研究B（IoT社会のビジネス創造）（Q5）
担当教員氏名	土本 康生
研究室の場所	1469研究室/叡啓大学618
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	希望に応じて随時
E-mail/HP	学生便覧参照
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの 必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	IoT, サービス, センサー, 通信, M2M, クラウド, ユビキタスコンピューティング, TRON
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎）分析力（ ）思考力（○）事業創造力（○）実践力（△）</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識：◎</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. IoTがどのような技術なのかを説明できるようになる。</li> <li>2. IoTがどのように使われているのかを説明できるようになる。</li> </ol> <p>思考力：○</p> <p>IoTが世の中をどのように変えるのか考えられるようになる。</p> <p>事業想像力：○</p> <p>IoTを利用した新しいサービスを考案できるようになる。</p> <p>実践力：△</p> <p>（望む学生は）IoTサービス構築に向けた環境を整えられるようになる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>専門科目の特別研究科目である。IoT技術を用いたビジネスのあり方を検討すべき時代がきた。本講義はIoT技術そのものとそのサービスのあり方、考え方を取り扱う。前提となる科目は特に定めない。なお本講義では人工知能やビッグデータについては取り扱わない。</p>
授業の内容	<p>本授業では、IoT（Internet of Things）が何であるのか、その基本的な考え方を理解することを第一の目的とする。技術的な細部に踏み込みすぎないようにしつつ、経営者やビジネスを創造する立場の者が知っておくべき基礎的な技術についても学ぶ。その上で、現在提供されているIoTを活用したサービスを調査し、その実装や実現方法をイメージしながら、新たなIoTサービスを考案し、発表してもらう。教科書は使用せず、シラバスに記載された参考文献や授業内で提示する資料・動画を用いて、IoTの全体像をつかんでもらう。参考文献の購入は必須ではないが、図書館を利用するなどして、可能な限り目を通すことを推奨する。</p>
成績評価の方法	<p>(1) IoTを利用した既存のサービスを調査してレポートにまとめる。(15%)</p> <p>(2) IoTを利用した新規ビジネスのたたき台を考案してみる。(15%)</p> <p>(3) IoTを利用したサービスを考案してレポートにまとめる。(30%) ※グループワーク活動の個人まとめ</p> <p>(4) 最終レポート：IoTとは何であるかをレポートにまとめる。(40%)</p> <p>(5) 授業への積極的な参加・貢献は別途加点する。</p>
テキスト	テキストは特に定めない。
参考文献	<p>高安篤史（2021）『IoT モノのインターネット』創元社 ISBN:978-4422400662</p> <p>神崎洋治（2017）『最新IoTがよくわかる本』株式会社秀和システム</p> <p>木村哲也（2018）『Small Factory 4.0』三恵社 ISBN:978-4864878654</p> <p>IoT産業技術研究会（2018）『未来IT図鑑 これからのIoTビジネス』株式会社エムディエヌコーポレーション</p> <p>松本光春（2020）『図解入門 よくわかる 最新 センサ技術の基本と仕組み』秀和システム ISBN:978-4798060927</p> <p>天野直紀（2018）『実践IoT 小規模システムの実装からはじめるIoT入門』オーム社 ISBN:978-4274222641</p> <p>モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（2021）『IoT技術テキスト 第3版』リックテレコム ISBN:978-4865942774</p> <p>坂村健（2017）『オープンIoT-考え方と実践』パーソナルメディア株式会社</p> <p>坂村健（2016）『IoTとは何か 技術革新から社会確信へ』角川新書</p> <p>坂村健（1989）『TRON：TRONの思想と今後』『情報処理』Vol.30 No.5 522-531頁</p> <p>NHKスペシャル取材班（2018）『IoTクライシス-サイバー攻撃があなたの暮らしを破壊する』NHK出版 978-4140817506</p> <p>他、授業内で動画や参考文献・資料となる情報を適宜提供する。</p>

備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や疑問、意見の提示など、授業に積極的に関与してくれることを期待します。</li> <li>・授業資料の配布や書連絡は、Microsoft Teams を利用します。</li> <li>・授業内でインターネットを利用した情報検索、情報の整理を行うこともあります。可能であればノートコンピュータを持参してください。タブレットやスマートフォンの利用も可能ですが、作業効率の観点からノートコンピュータの利用を推奨します。</li> </ul>
---------------------	---

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	4月5日(土) オリエンテーション	このシラバスを熟読しておく。また、授業で利用するコンピュータを用意しておく。WindowsでもMacでも構わない。
	第2回	4月5日(土) そもそもIoTとはなんなのか？	IoTとは何かを自分なりにつかんでおく。参考図書の「IoTモノのインターネット 第1章 IoTの目的と現状」「最新IoTがよ〜くわかる本 第1章 IoTの利用事例」が参考となる。
	第3回	4月12日(土) 中小企業におけるIoTの取り組み	実際に中小企業でどのようなIoT活用がなされているのか把握しておく。参考図書「Small Factory 4.0」が参考になる。
	第4回	4月12日(土) IoTを取り巻く技術	IoTが技術的にどういうものなのかを自分なりにつかんでおくこと。参考書籍「これからのIoTビジネス P ART2 IoTを支える仕組みと技術」「IoTモノのインターネット 第2章 IoTを構成する基本技術」あたりが参考となる
	第5回	4月19日(土) プレゼンテーション：IoTサービスの現状	自分が書いたレポートを改めて読み、何を書いたかを確認しておく。プレゼンテーションする人は事前に連絡する。プレゼンテーションの準備をすること。
	第6回	4月19日(土) IoTを支える技術：ハードウェア	世の中にあるセンサー事情を把握しておく。参考図書「センサ技術の基本と仕組み 第3章 センシング：物理・化学センサとその仕組み」「実践IoT 第7章 センサで状況・状態を計測する」あたりが参考になる。
	第7回	4月26日(土) IoTを支える技術：通信	IoTを支える通信技術にどのようなものがあるのかを自分なりにつかんでおく。参考書籍「実践IoT 第5章 多様な通信手段を組み合わせるデータを送出する」「オープンIoTー考え方と実践 第3章 IoTのためのネットワーク技術」あたりが参考となる。
	第8回	4月26日(土) IoTを支える技術：バックエンド	IoT技術を支えるバックエンドシステムがどのようなかを把握しておく。参考図書「実践IoT 第4章 サーバでデータを受信・保持・処理する/第6章 プロセッサで現場の通信・データ処理を実現する」あたりが参考となる。
	第9回	5月10日(土) IoTを支える技術：実装の実際	学んできたことがどのように実装されるのかを把握しておく。参考図書「IoT技術テキスト 第3版 第6章 IoTシステムのプロトタイプ開発」あたりが参考になる。
	第10回	5月10日(土) 復習：技術的な視点でIoTを振り返る	第5回から第8回の学修内容を復習しておく。
	第11回	5月17日（土） プレゼンテーション：考案したIoTサービス	自分が書いたレポートをあらためて読み直し、自分が考案したIoTサービスを確認しておく。履修者の数にもよるが、基本的に全員プレゼンテーションしてもらう。
	第12回	5月17日(土) IoTはオープンであるべき？	坂村健先生が提唱するオープンIoTの考え方を自分なりにつかんでおく。参考書籍「オープンIoTー考え方と実践 Chapter1 オープンIoTの考え方」「IoTとは何か 第3章 オープンとクローズ-日本の選択」あたりが参考となる
	第13回	5月24日(土) IoTとTRON	論文「TRON：TRONの思想と今後」を読んでおく。また自分が調査したIoTサービスはオープンな技術なのかクローズの技術なのか考えてくる。
	第14回	5月24日(土) IoTセキュリティ	IoTセキュリティで気を付けるべき点、発生した事件を把握しておく。参考資料「デジタルエコノミー時代のサイバーセキュリティ IoT機器の普及とサイバーセキュリティ政策」が参考になる。NHKスペシャルで放送された「あなたの家電が狙われている」は同書を映像化したものである。
	第15回	5月31日(土) プレゼンテーション：自分で考えたIoTサービス	発表準備
	第16回	5月31日(土) 全学修項目の振り返り	今まで学修してきた資料を読みなおすこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	特別研究C（経営のリスクマネジメント）（Q5）
担当教員氏名	七田 良彦
研究室の場所	
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	千葉県在住ですので、on-lineで対応致します、事前にメールで面談希望スケジュールをご連絡ください。
E-mail/HP	shichida@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義（オンライン併用可）
単位数	2
時間数	30
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	企業経営、リスク、金融市場、フィナンシャルリテラシー、パラダイム
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力(○) 思考力（○） 事業創造力（○） 実践力（◎）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識：企業経営における`リスクマネジメント`の基本を理解し、持続的な企業経営を実践できる知識・能力を修得する。</p> <p>■分析力：企業を取り巻く様々な`リスク`の種類、内容を整理し、各種リスクの見える化（数値化等）を行える分析力等を修得する。</p> <p>■思考力：企業を取り巻く各種リスクを理解し、想定を超えた規模感で発生する様々なリスクへの対応方を修得する。</p> <p>■事業創造力：新規事業投資におけるリスク評価の基本的な手法等を理解し、新規事業の立ち上げに関わるリスクマネジメント手法等を修得する。</p> <p>■実践力：経営を取り巻く様々なリスクを理解し、各リスクへの対処案等を策定し、具体的な実行段階に落とし込む実践力を修得する。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>経営幹部や経営人材に求められる企業経営を取り巻く様々なリスクへの対応等に関わる知識（含む フィナンシャル・リテラシー等）の修得を目指す。経理、財務、法務、ITC等の関連知識の総合的活用が求められるので関連科目（ファイナンス、アカウンティング）の事前履修が望ましい。中小企業の置ける実務事例も学び、企業経営に欠かせない幅広いリスク管理関連知識の修得を目指す。</p>
授業の内容	企業経営に必要とされるリスクマネジメント知識の習得とその活用に関わる意思決定の在り方等を学習する。事業会社を取り巻く様々なリスクへの対処、新規案件の投資判断等、に必要とされるリスクマネジメントリテラシー、財務リテラシー等を様々な実務事例（ケーススタディ等）を通じて習得することを目指す。講師の実務体験に基づいた、国内外における各事業にて対応した様々なリスク（金融危機、通貨危機、流動性危機、コンプライアンス事案にかかわる危機等）や国内外における新規事業の立ち上げの事例紹介等を通じ、リスクマネジメントの実務等を学習することが特徴である。一般的にこれらの事業は、大企業の経営幹部が意思決定の際に必要な経営リスクマネジメント分析と考えられるが、中小企業やベンチャー企業等の経営人材にこそ修得してもらいたい科目である。具体的な事業案件（ケース事案、含む様々な日経新聞の記事等）を元に、毎回、様々な意見交換やグループワーク等を行う。
成績評価の方法	日常点（講義への貢献、質疑応答等）：40％ レポート複数回予定（各種事例への考察、計算練習課題等）：40％ 期末テスト：20％
テキスト	砂川伸幸 川北英隆 杉浦秀徳 佐藤淑子 『経営戦略とコーポレート・ファイナンス』 2013年 日本経済新聞出版社 ISBN978-4-532-13441-9
参考文献	・石野雄一 『ざっくりわかるファイナンス』 2007年 光文社新書（MBA図書室蔵） ・福岡年勝 『リスクに挑む』 2002年 バジリコ株式会社（MBA図書室蔵 複数あり） ・野中郁次郎 戸部良一ほか 『失敗の本質』 1991年 中公文庫（MBA図書室蔵） ・白川方明 『中央銀行』 東洋経済 2018年 ISBN-13 978-4492654859 (MBA図書室蔵) ・ダニエル・ヤーギン 『市場対国家』 2001年 日経BP (MBA図書室蔵) ・野口悠紀雄 『日本経済入門』 2017年 講談社（MBA図書室蔵）・藤田誠 『経営学入門』 2015年 中央経済社 ISBN978-4-502-13391-6
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	基礎科目における7かケイティングやファイナンスの知識を活用するので、関連する科目の履修が望ましい。講義の内容や講義内で紹介する日経新聞等の経済記事を通じ、世の中の経済現象（含む身の回りの出来事等）を「我が事」として理解し、企業を取り巻く様々なリスクに関わる知識（見える化ほか）を学び、企業経営を継続的に実行できる経営力を体得する事を目指す。【学生による授業アンケート結果を踏まえた対応・改善について】総合的に判断してこの授業に満足している（3.75）、目標とする力（知識・技能等）が身につく（3.63）と高い評価を頂きました、他方、授業の内容に関してさらに学びたいくなるは、少し評価（4.0→3.5）が下がりました。次年度は、取り上げる様々なケーススタディの見直し（関連情報アップデート等）を行い評価向上につなげたいと思います。フォローアップは、引き続きTEAMSを活用し、皆さんの目指す所が確りと身につくように講義を進めたいと思います。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	企業経営のリスクマネジメント体系について（はじめに）	企業を取り巻く市場環境の変遷や様々なリスク等について考える 教科書の「はじめに」「目次」「第1章 経営戦略とファイナンス」を事前に読んで置くこと。日本経済の現状等について『日本経済入門』 野口悠紀雄 講談社現代新書 が参考になる。
	第2回	企業経営リスクの因数分解について（実務的な視点で）	戦後の世界経済の流れは『市場 対 国家』ダニエル・ヤーギン が参考になる。 金融市場の動きについては、やや大著ですが『中央銀行』白川方明（前日銀総裁）が参考になる。（関連資料等、配布予定）
	第3回	企業経営のフレームワークと様々なリスクの見える化ほか	企業経営のフレームワークを構成する様々な管理手法等についての理解を深め、各枠組み（管理手法等）が対応するリスクの種類等を考える 教科書 「第2章 成長戦略とファイナンス」 を読んでくること
	第4回	企業経営のフレームワークにおける理念、戦略、組織、企業文化等について	持続的な付加価値の創造を可能とするために欠かせない、経営理念、戦略、売れる仕組み作り、組織等のあるべき姿等を、実際の事例で学習する。（関連資料等、配布予定） 経営のフレームワークについては、参考図書『経営学入門 藤田誠 中央経済社』が参考になる。
	第5回	企業財務と経営のフレームワークについて（投資価値の現在価値計算等）	企業経営と財務戦略との関わりを学習するので、「第3章 企業価値評価と経営戦略」を読んでDCF計算式の内容等について事前に理解すること。
	第6回	事業投資における財務戦略について（資本コストによる投資の意思決定等）	資本コストの計算、DCFの計算等は、参考図書 石野雄一『ざっくりわかるファイナンス』 光文社新書 MBA図書室蔵 が参考になる。（関連資料等、配布予定）
	第7回	事業投資リスク等（投資に伴う様々なリスクの管理手法等）	企業を取り巻く各種リスクの因数分解を行い、企業成長に欠かせない事業投資のリスク（新規投資、融資、M&A等）について具体的に考える。教科書 「第4章 投資とファイナンス」を読んでおくこと。（課題となる関連財務諸表等、配布予定）
	第8回	信用リスク等について	経営の根幹を揺るがす可能性がある信用リスク（企業と信、長期ファイナンス、担保評価、カントリーリスク等）について、その内容、更に、具体的な対応策等について考える。（関連資料、配布予定）
	第9回	市場リスク等について	価格が変動することで顕在化する市場のリスクの管理手法（商品売買越、為替売買越、資金運用、先物取引、オプション取引等）について、具体的なリスクの内容等、ヘッジ取引のあり方等について実際の発生事例等を通じて理解を深める。（関連資料等、配布予定）
	第10回	企業経営とコンプライアンスリスク、CSRリスク等について	近年、顕在化している法務に関わるリスク（コンプライアンスリスク等）やCSR関連リスク（含むSDGs 対応等）、IT資産運用等に関わるリスクについて、その内容を理解し、会社としての対処方法等について学習する。（関連資料等は、配布予定）
	第11回	グローバル化とそのリスク	ブラザ合意（1985年）以降、日本企業は円高進行に伴い海外における企業活動（グローバル化）を拡大している。近年の感染症拡大、ウクライナ戦争等により各企業の海外事業（含むサプライチェーン）が直面した様々な経営課題についても具体的な事例を通じて考える。1997年のアジア通貨危機対応については 参考図書『リスクに挑む』 福岡年勝 バジリコ株式会社が参考となる。
	第12回	海外での事業展開と現場におけるリスクマネジメント（実務事例紹介）	講師の実務経験等を参考に、海外事業におけるリスクマネジメントのあり方等について考える。案件紹介の後、質疑応答等を行う。教科書「第9章 共英製鋼の海外成長投資」を読んでおくこと。（関連資料等、配布予定）
	第13回	新規事業立ち上げ、事業計画策定等について	三井物産株式会社の実務経験者によるリスクマネジメントの実務、投資案件の紹介、それに関わる質疑応答等を行う。教科書「第5章 投資戦略と経営計画」を読んでおくこと。
	第14回	国内事業でのリスク顕在化事例紹介ほか	講師が関与した国内での事業事例（リスク顕在化他）を説明する。加えて各事案で直面した様々な経営リスクへの対処方法の実務等について解説を行い、その後、質疑応答等を行う。（事案の案件資料等は、当日、配布予定）
	第15回	小論文、小テスト（理解度確認）	講義内容の振り返りを兼ねた小テスト（投資に関わる企業の価値計算等を含む）と小論文の課題説明。（電卓、パソコン、教科書、参考資料等、持ち込み可）
	第16回	小テスト解説、全16回の振り返りほか	小テストの計算問題等の内容解説を行う。尚、小論文への講師コメントは、後日、個別に解答を予定（Teams経由他）。
授業計画			
シラバス備考	基礎科目におけるアカデミックやファイナンスの知識を活用するので、関連する科目の履修が望ましい。講義の内容や講義内で紹介する日経新聞等の経済記事を通じ、世の中の経済現象（含む身の回りの出来事等）を「我が事」として理解し、企業を取り巻く様々なリスクに関わる知識（見える化ほか）を学び、企業経営を継続的に実行できる経営力を体得する事を目指す。		
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	特別研究D（マネジメントアカunting）（Q6）
担当教員氏名	小川 琢之
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	ハイブリット
授業の形式・方式	講義
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	経営、マネジメント、管理会計、キャッシュフロー、損益分岐点、KPI、リスク、原価計算
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力(◎) 思考力（○） 事業創造力（○） 実践力 （◎）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■知識：数値の重要性を理解し事業の基礎数値を頭に入れることができる。マネジメントアカuntingの基本的なツールであるキャッシュフローマネジメント、損益分岐点分析、等を理解し実務で活用できるスキルを体得する。</li> <li>■分析力：業種とビジネスモデルにより企業の財務諸表が異なりマネジメントアカuntingとして見るべき観点も変わってくることを理解し、業態に応じた分析力を習得する。</li> <li>■思考力：企業経営を数字を通して見ることで、経営を客観的に見ていく力を習得する。</li> <li>■事業創造力：事業の成長段階における会計数値、KPIの見方について理解し、新規事業の立ち上げ、安定事業に関わるマネジメントアカuntingのあり方等を学ぶ。</li> <li>■実践力：見るべき数値が業種、ビジネスモデルによって異なることを理解し、それぞれの事業で具体的な経営実務に落とし込む実践力を学ぶ。</li> </ul> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>カリキュラム上は専門科目であり、将来の経営人材に求められるマネジメント・アカuntingに関わる知識を学ぶ。（基礎科目にあるアカuntingの理解が前提となる）ビジネスの実例に触れることで企業経営に欠かせない幅広い関連知識の修得を目指す。</p> <p>尚、昨年まで2単位8日間で行われた「マネジメントアカunting」のクラスは今年度から1単位4日間となり、DCF等による投資評価については「ファイナンス演習」で取り上げられる。</p>
授業の内容	<p>アカuntingの基礎を学んだ履修者が、マネジメントアカuntingのツールを活用し数値を見て会社の経営に活かすことを学ぶ。見るべき数値が業種や事業のビジネスモデルにより異なること、事業のビジネスモデルとリスクを理解し事業に則した数値管理の手法を適用していくこと、数値管理がもたらすメリットとデメリット、財務諸表から見える経営課題が業種によって異なること、等を実例を踏まえ学ぶ。</p> <p>コース終了時に経営を数字と結びつけて見る力が付いていることを目指す。</p>
成績評価の方法	<p>日常点（授業での発言・質問・ディスカッションによる質の高い授業への貢献）：40%</p> <p>中間課題：30%</p> <p>期末レポート：30%</p>
テキスト	山根節、太田康広、村上裕太郎、木村太一『ビジネス・アカunting 財務諸表から経営を読み解く』第5版 2024年 中央経済社 ISBN978-4-502-50031-2
参考文献	<p>・稲盛和夫『稲盛和夫の実学―経営と会計』日経ビジネス人文庫</p> <p>・伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計―人はなぜ測定されると行動を変えるのか』日本経済新聞出版社</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>基礎科目アカuntingの単位を取得しマネジメントにアカuntingを活かすことに興味を持っている学生が対象。アカuntingの基礎を既に別の機会に学んでいる、あるいは仕事で携わっている、等の理由により、基礎科目アカuntingを未受講とした学生も受講可能。講師に相談ください。</p> <p>授業への積極的な参加、発言、質問を通じたクラスへの貢献を期待する。</p> <p>本講義の内容や講義内で紹介する事例を通じ、適切な財務数値・非財務数値で経営を見ることが経営に資することを学び、修了後の実務に活か</p>



せる知見の習得を目指す。中間課題ではケーススタディー問題に取り組み、期末時には受講者が自由にテーマを決めた期末レポートの提出が求められる。期末レポートでは自身の卒業研究や自身が携わる事業に関連させて、マネジメントアカウンティングの手法を用い分析・研究を深めることも可能。

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	マネジメントアカウンティングとは何か、数字を通じて健全な企業経営を行うということはどういうことか、事例を通じて考える。	経営を数字で語ることの重要性、「マネジメントアカウンティング」とは何か、なぜ会計が大事か、会計が表現できることできないことは何かを考えつつ、テキストのまえがき、目次、第1章『会計リテラシー』、第2章『ウォーミングアップ・セミナー』を読んでくこと。 また、毎回の講義ではテキストに加え事前配布する資料に目を通して講義に臨むと講義の理解が深まります。
	第2回	会計数値・KPIから各企業の事業構造、収益構造、投資戦略等を読み取ることを学ぶ。事業構造によって財務諸表が異なることを理解する。また、事業によってKPIをどのように設定するかを学ぶ。	財務諸表の見るべきポイントが業種、ビジネスモデルにより異なるということを考えつつ、テキスト第3章を読んでくこと。
	第3回	キャッシュフロー計算書を作成する作業を通じて、キャッシュフロー計算書の構造を学ぶ。	基礎科目アカウンティングのキャッシュフローの復習。キャッシュフロー計算書とは何か、またそこから何が読み取れるのかを考えつつ、テキスト第7章『キャッシュフローを読む』を読んでくこと。
	第4回	ベンチャー企業を含む経営の実例を通じて、キャッシュフロー管理の重要性について理解する。	キャッシュフロー計算書が業種やビジネスの成長ステージにより異なることを考えつつ テキスト第5章『財務諸表で意思決定』を読んでくこと。
	第5回	事例を通じ、事業の固定費、変動費について学び、事業の構造によりそれらが異なることを理解する。	基礎科目アカウンティングの変動費・固定費、損益分岐点分析の復習。テキスト第8章『利益性を把握する』p.258-263、及び別途配布するテキストの旧版（第4版）の第8章『ビジネスプランを練る』p227-pp240を読んでくこと。
	第6回	損益分岐点の構造等が業種毎に企業毎に異なる事等を学習する	同上。固定費・変動費には業種毎による違いがあることに思いをはせること。
	第7回	中間課題の解説を行う。関連する様々な話題、経済記事等を説明しつつ講義全体の振り返りを行う。	中間課題をreviewし、コースで学んだことの振り返り、疑問点の整理を事前に行うこと。
	第8回	最後にマネジメント・アカウンティングの重要トピックスである原価について実例を交えて理解を深める。	テキスト第8章『利益性を把握する』p.233-p.258を読んでくこと。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	特別研究E（ファイナンス演習）（Q6）
担当教員氏名	七田 良彦
研究室の場所	
連絡先電話番号	学生便覧参照
オフィスアワー	千葉県在住ですので、on-lineで対応致します、事前にメールで面談希望スケジュールをご連絡ください。
E-mail/HP	shichida@pu-hiroshima.ac.jp
授業形態	対面
授業の形式・方式	演習
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	2年次
免許等指定科目	
キーワード	コーポレートファイナンス、キャッシュフロー、CAPM、DCF、企業評価、ESG
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（◎） 分析力(◎) 思考力（○） 事業創造力（○） 実践力 （◎）</p> <p>【到達目標】</p> <p>■知識：コーポレートファイナンスの基本的なツール等を理解し、実務で活用できる知識を習得する</p> <p>■分析力：キャッシュフローによる企業評価分析の様々な手法を習得する</p> <p>■思考力：経営をキャッシュフローを通して見ることで、企業価値を客観的に見てゆく力を取得する</p> <p>■事業創造力：事業キャッシュフロー分析し、当該事業の創造性向上へ貢献する力を習得する。</p> <p>■実践力：事業キャッシュフロー分析を活用し事業ポートフォリオの入れ替え（含むM&amp;A)等を行う実践力を習得する</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p>
授業の内容	アカウンティング、ファイナンス等の基礎を学んだ履修者が、様々な企業評価の手法（資本コスト、WACC,CAPM,DCF 法、マルチプル法等）を実践的に学び、企業経営の様々な実務（新規投資の評価、企業買収における相手先企業の評価等）にファイナンス関連の知識を活用できる段階に到達することを目指します。
成績評価の方法	<p>日常点（授業での発言、ディスカッションへの参加、授業への貢献等）：40%</p> <p>レポート課題（複数回予定、各種計算問題等）:40%</p> <p>期末課題レポートほか 20%</p>
テキスト	ゼミナール コーポレートファイナンス 朝岡大輔 砂川信幸 岡田紀子 日経BPマーケティング ISBN978-4-532-13524-9
参考文献	<p>ざっくりわかるファイナンス 石野雄一 光文堂新書 ISBN978-4-334-03397-2</p> <p>ファイナンス 石野雄一 日本経済新聞社 ISBM978-4-532-32379-0</p> <p>その他の参考文献</p> <p>は、講義の中で随時紹介する</p>
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	基礎科目におけるアカウンティングやファイナンスの単位を取得し、企業経営にアカウンティングやファイナンスの知識を活かすことに興味を持っている学生が対象。授業への積極的な参加、発言、質問、そして計算課題（エクセル利用）の予習・復習等を確り行うことを期待する。本講義の内容や講義内で紹介する業種、事例を通じ、数字、特に会計数値で経営を見ることが経営に資することを学び、修了後の実務に活かせる知見の習得を目指す。

	回数	授業計画	準備学習
	第1回	コーポレートファイナンスについて考える	テキスト はじめに そして、第1章 コーポレートファイナンス を読んでくること

授業計画	第2回	リスクとリターンの価値、DCF法について学ぶ	テキスト 第2章 バリュエーションの基礎 を読んでおくこと（テキスト付属のエクセルの計算式を理解しておくこと） DCF法については、参考図書 石野雄一 ざっくりわかるファイナンス も参考になる
	第3回	キャッシュフローについて考える	テキスト 第4章 資本利益率とキャッシュフローを読んでおくこと（テキスト付属のエクセルにある計算式を理解すること）
	第4回	市場ポートフォリオ、市場ベータ、CAPMについて考える	テキスト 第5章 ポートフォリオとCAPMを読んでおくこと（テキスト付属のエクセル表の計算式も理解しておくこと）
	第5回	資本コストについて考える	テキスト 第6章 資本コストの算出 を読んでおくこと（テキスト付属のエクセルシートの計算式も理解しておくこと）
	第6回	投資決定のプロセスを考える	テキスト 第7章 投資評価と財務モデル、を読んでおくこと（テキスト付属のエクセルシートも理解しておくこと）
	第7回	企業価値の評価について考える	テキスト 第8章 企業価値評価 第9章 バリュエーションと経営戦略 を読んでおくこと（テキスト付属のエクセルシートも理解しておくこと）
	第8回	ESG、IR等の実務について考える、そして、コーポレートファイナンスの広がりについて考える	テキスト 第13章 企業と投資家の対話、そして、第14章 コーポレートファイナンスの広がり を読んでおくこと
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			

授業科目名	特別研究F1（スタンフォード大学連携科目1）（Q3）
担当教員氏名	野上 智晃
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	オンライン（リアルタイム）
授業の形式・方式	Online only
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの必修・選択の別	選択
履修要件	1 年次
免許等指定科目	
キーワード	起業家精神、起業家教育、シリコンバレーエコシステム、ベンチャー、スタートアップ、ピボット、グリッド
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>知識（○） 分析力（◎） 思考力（◎） 事業創造力（○） 実践力（◎）</p> <p>■ 知識  起業に必要な考え方や知識をゲストスピーカーの講義を通じて獲得する。なお、内容は網羅的なものではなく、講義をきっかけに幅広い知識獲得の足がかりとしてもらうことを狙っている。また、スタートアップをめぐるシリコンバレーのエコシステムの実態を知識として理解する。</p> <p>■ 分析力  アントレプレナーたちの共通項とはなにかを分析できるようになる。</p> <p>■ 思考力  事業立ち上げに必要な要素を考えられるようになる。</p> <p>■ 事業創造力  事業立ち上げに必要な戦略などについて学ぶ。</p> <p>■ 実践力  リスクテイクしながら付与の環境を最大限に活かすアントレプレナーの視点やマインドセットや起業に必要な技術を獲得する。</p>
授業の内容	<p>イノベーションを生み出し新規創業の担い手となる人材の育成が国や組織の課題となる中、そして世の中の不確実性が増す現在、新しい視点や着想でこれまでにない価値を生み出せる人材の育成が求められています。そこで注目されているのがアントレプレナー（起業家）教育です。</p> <p>本講義では、受講者とシリコンバレーを中心とした国外で活躍する人材をつないで交流を促進し、参加者全員が起業をめぐる新しい考え方を蓄積する場を提供します。アントレプレナーから、起業に至るまでの、そして起業後の経験を伺います。ビジネスの中核を担う技術やサービスの概要に続けて、起業家としてのアプローチやビジネス哲学などを絡めた講義をいただき、続けて受講生が自由に質問したり発言できる時間を設けます。授業後半は、担当グループの受講生のファシリテーションにより、毎回異なるテーマに沿って議論し、授業前半の学びを深めていきます。</p> <p>本講は、スタンフォード大学の学習管理システムCANVASを使って実施されます。受講生はCANVASのサイトから各回の講義に必要な連絡事項・課題などをチェックし、事前学習を目的とした教材（文献・動画など）にアクセスし、オンライン・ディスカッションに参加することが求められます。</p>
成績評価の方法	成績は、最終レポート元に決定される他、スタンフォード大学が提供する学習管理システムCanvasでの活動も考慮した上で総合的に決定します。
テキスト	テキストの指定はありません。
参考文献	参考文献や資料、事前課題はスタンフォード大学が提供する学習管理システムCanvasで随時共有されます。
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	シリコンバレーで活躍する人材と直接交流する貴重な機会です。ネットワーク、視野、そして世界観を広げるつもりでぜひ積極的に質問・発言をしてください。ディスカッションやグループワークにも自主的な姿勢で臨んでください。そのためには事前課題にきちんと取り組むことが求められます。Canvasの情報をこまめに確認してください。

	回数	授業計画	準備学習
--	----	------	------

授業計画	第1回	2025年10月4日※変更される場合があります ゲストスピーカーによる講義と質疑応答	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
	第2回	2025年10月4日※変更される場合があります 講義と質疑応答を元にした議論	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
	第3回	2025年10月18日※変更される場合があります ゲストスピーカーによる講義と質疑応答	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
	第4回	2025年10月18日※変更される場合があります 講義と質疑応答を元にした議論	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
	第5回	2025年11月1日※変更される場合があります ゲストスピーカーによる講義と質疑応答	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
	第6回	2025年11月1日※変更される場合があります 講義と質疑応答を元にした議論	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
	第7回	2025年11月15日※変更される場合があります ゲストスピーカーによる講義と質疑応答	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
	第8回	2025年11月15日※変更される場合があります 講義と質疑応答を元にした議論	授業担当者による課題があります。Canvasをチェックして 期限までに課題を提出してください。 参考資料はCanvasからダウンロードできます。
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイル をアップロードしてください			

授業科目名	特別研究F2（スタンフォード大学連携科目2）（Q6）
担当教員氏名	村木 聡
研究室の場所	
連絡先電話番号	
オフィスアワー	
E-mail/HP	
授業形態	オンライン（リアルタイム）
授業の形式・方式	Online only
単位数	1
時間数	15
学科または専攻ごとの 必修・選択の別	選択
履修要件	1年次
免許等指定科目	
キーワード	Foundations of Global Communication Strategy
授業の目標とカリキュラム上の位置づけ	<p>【到達目標】Goal</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■知識/Knowledge: To gain through practice strong grasp of the concepts of communication strategy, heartfulness, and assertiveness.</li> <li>■分析力/Analytical ability: To identify key stakeholders and the most effective messaging for each, in order to develop a strategic communication strategy.</li> <li>■思考力/Thinking ability: To develop a communication strategy which reflects consideration for the diverse perspectives of key stakeholders.</li> <li>■事業創造力/Business creativity: To become fluent in the "art" of communication based on heightened awareness of one's own values and appreciation for those held by others.</li> <li>■実践力/Practical ability: To apply the "Pyramid Principle" to structure logic, to plan for and hold difficult conversations, to connect with others as a prerequisite of communication, and to exercise "Assertiveness" to make oneself heard, with a focus on competency in a global setting.</li> </ul> <p>【カリキュラム上の位置付け】/Position in the curriculum</p>
授業の内容	<p>The following topics will be covered. Guest speakers will be invited to each class depending on the theme.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Strategic Communication and the Pyramid Principle Successful leaders communicate strategically, analyzing their situation, their audience's concerns, and their goals/intent before drafting a message. The Classroom Session will use a short case to provide a simple context for exploring fundamental communication strategy. The case will also offer context for hands-on practice in applying the "pyramid principle" to organize messages.</li> <li>●Making Difficult Conversations Productive Having difficult conversations can seem risky but doing it well can yield productive results. In this lesson, students will learn and practice several different techniques for navigating challenging conversations and achieving communication results while maintaining positive relationships.</li> <li>●""Heartfulness"" as a Foundation of Communication In this lesson, we will learn basic principles that are essential for individual and organizational well-being, leadership, and communication. By practicing the art of seeing others deeply and offering presence we will see how the power of connectedness enhances well-being. The Classroom Session combines lecture with experiential exercises to illustrate each topic.</li> <li>●"Assertiveness for Global Communication"</li> </ul>

	This lesson is developed for Japanese seeking to strengthen their ability to communicate in an international context. Students will be shown how to recognize differences between "assertiveness," "aggressiveness," and "passiveness" in communication, and will be given the opportunity to practice "assertiveness" and explore how it can be used in, as well as outside of, the workplace.
成績評価の方法	Online Discussion: 24% of final grade; Class Facilitation: 22% of final grade; Reflective Journal: 24% of final grade; Final Project: 30% of final grade
テキスト	A short selection of texts will be provided one week prior to each classroom session.
参考文献	
備考(履修上のアドバイス・禁止事項等)	<p>Please note:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SHCPE-2 will be taught primarily in English. Lectures will be in English and translated into Japanese as necessary and appropriate. The course website on Canvas will be hosted in English. Reading assignments will be in English. Discussion among students may be in either Japanese or English. Discussion Board postings, Reflective Journal, and Final Project may be completed in either Japanese.</li> <li>2. SHCPE-2 virtual classroom sessions will take place using Zoom. To participate, students will need a computer with a camera, headphone/speaker, microphone, and high-speed internet connection.</li> <li>3. SHCPE-2 takes place on an online platform called Canvas. Students are expected to contribute to Discussion Boards on the Canvas website. For each lesson, students are required to write a minimum of 3 posts.</li> </ol>

授業計画	回数	授業計画	準備学習
	第1回	Ms. Ginger Koto Vaughn: Communication with Major Stakeholders Part I (90 minutes): Presence and voicing values	Reading ("Elements of Communication Strategy"), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
	第2回	Ms. Ginger Koto Vaughn: Communication with Major Stakeholders Part II (90 minutes): Making difficult conversations productive	Reading ("Elements of Communication Strategy"), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
	第3回	Ms. Ginger Koto Vaughn: Strategic Communication and the Pyramid Principle Part I (90 minutes): Theory of strategic communication and Pyramid Principle	Viewing (Harvard Business Review video "How to Give Feedback"), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
	第4回	Ms. Ginger Koto Vaughn: Strategic Communication and the Pyramid Principle Part II (90 minutes): Application in the workplace	Viewing (Harvard Business Review video "How to Give Feedback"), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
	第5回	Dr. Stephen Murphy-Shigematsu: Heartfulness as Foundation of Communication Part I (90 minutes): Heartfulness	Reading (Chapter 1 from "Beginner's Mind"), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
	第6回	Dr. Stephen Murphy-Shigematsu: Heartfulness as Foundation of Communication Part II (90 minutes): Mindfulness	Reading (Chapter 1 from "Beginner's Mind"), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
	第7回	Dr. Stephen Murphy-Shigematsu: Assertiveness for Global Communication Part I (90 minutes): Theory of Assertive, Non-assertive, and Aggressive communication	Reading (TBD), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
	第8回	Dr. Stephen Murphy-Shigematsu: Assertiveness for Global Communication Part II (90 minutes): Role playing	Reading (TBD), Discussion Board Questions, Class Facilitation Preparation (by group)
授業計画			
シラバス備考			
URLリンク			
科目ルーブリックがある授業のみこの項目にファイルをアップロードしてください			